

第四回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

作品集

一般の部

入賞・入選作品

【一般の部・題詠「湯」 最優秀賞】 一首

水が湯に湯が湯気になるように逝った祖父の欠けらを吸ってたのかも

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

【一般の部・自由題 最優秀賞】一首

「大丈夫さ」 そう言いながら並びゆくマトリョーシカは霜月の子

三重県津市 樋田 由美

【一般の部・題詠「湯」 優秀賞】 二首

湯上りに太りしと嘆くヴェーナスなれ讃へいだくも山の湯の宿

愛知県知立市 星原 風堂

湯の町に客足戻るを願ひつつ夜ごとホテルの明かりを数ふ

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

【一般の部・自由題　優秀賞】二首

この時季がいちばん好きというキミの赤系だけが短いクレヨン

群馬県みなかみ町　大山　智也

べえべえの上州弁も近ごろは聞けなくなりて皆足長し

群馬県高崎市　熊澤　峻

【一般の部・題詠「湯」 選者賞・伊藤一彦選】 一首

避難所の夜長さぞかし寒かろうなど思^もひ沈む独り居の湯に

秋田県秋田市 加藤 トシ子

【一般の部・題詠「湯」 選者賞・小島なお選】 一首

何もないなにもなければどふるさとの越後湯沢に雪だけはあり

東京都杉並区 庭野 治男

【一般の部・自由題 選者賞・伊藤一彦選】一首

退院の家路で知れりこの道にわずかな上り下りあること

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

【一般の部・自由題 選者賞・小島なお選】一首

言の葉に乗せぬ思ひはそのままに「おいしかった！」で集ひは果てぬ

大阪府河内長野市 木村 嘉子

【一般の部・題詠「湯」 入選】 二十首

貰いたる柚子を冬至の湯に浮かべ彼の世の妻に逢う日を思う

徳島県阿南市 小畑 定弘

湯の中に伸ばす手足のなま白しあしたは麓を歩いてみるか

東京都世田谷区 野上 卓

湯浅といふ名字となりて五十年呼ばれ馴染みて心も振り向く

群馬県高崎市 湯浅 慧子

花模様のビニール袋一つ買い嫌がる友と好きな足湯へ

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

この頃を何故にか白湯の旨さ増し老いの兆や母偲ばるる

群馬県沼田市 田村 鶴江

浴室の湯気の向うに火炎揺る夕陽よ吾は勤めを終えたり

千葉県四街道市

上田

康彦

電線につばめの群れて腹白し湯の街育ち旅立ち近し

埼玉県さいたま市

前田

明利

山の湯に散りくるもみぢを掬はむと虫捕る網がおかれてありぬ

群馬県みなかみ町

眞庭

義夫

再浴を願い大湯に大きなる「ゆ」の字を書きて湯神に祈る

千葉県船橋市

川崎

富子

よもぎ湯の椅子に座って蒸されてる私ふかふか饅頭になる

群馬県みなかみ町

田中

春枝

コロナ禍で獅子の稽古もままならず 師匠も来ずして湯茶も出て来ず

群馬県みなかみ町

佐々木 吉雄

諍ひを止めてくれたり笛の鳴る湯沸しケトルは味方か否か

群馬県みなかみ町

眞庭 ヨン子

ひとり寝ができる順にと湯たんぽをひとりにひとつ遠き冬の夜

群馬県沼田市

蛸山 恵子

利根川と湯桧曾川合い嵩増せば歓声を上げラフティングゆく

群馬県みなかみ町

荒木 洋子

子ら去れば廊下の幅も広がりて夫の湯の香の太々とくる

群馬県渋川市

忽滑谷三枝子

山の朝湯けむり纏う春の風見え隠れするさまざまな肌

群馬県千代田町

大谷

光男

口先に皺をあつめてふうふうと母吹く息の葛湯窪ます

愛知県名古屋市

清水

良郎

湯豆腐や葉味を変えて今宵又老いの会話をふつつと聞く

群馬県みなかみ町

澁谷

典子

湯けむりの奥におもかげ浮かび来て今かたわらに君の生きてる

群馬県前橋市

久保田

桂子

湯のなかに涙を零す夜もあり季節はづれのあさがほも咲く

埼玉県さいたま市

谷川

恵

【一般の部・自由題 入選】二十首

出逢えたね黄葉银杏並木道一年分の話をしよう

群馬県沼田市 桑原 環世

冬物の衣服取り出す猫入る猫取り出して夏物しまふ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

白髪おの交じりし男おの子女めの子らは今宵唄ひて酔ひて踊れり

群馬県みなかみ町 大崎 藤一郎

三本の辻に出会うと心なし怖くて悲しちちはは遙か

群馬県高崎市 齋藤 宏子

機はたの窓に吾子の住む島見えくれば二度ふたたび夫と席かはりたり

群馬県伊勢崎市 木村 あい子

機関区に何台も並ぶ「桃太郎」黙つて氷雨にちつと濡れてる

広島県広島市

小野 系子

棟梁と呼ばれることの無くなるも手放せずいる大工道具を

埼玉県所沢市

若山 巖

そんなの走つてたかと思うような馬が一着諦めもつく

東京都文京区

遠藤 玲奈

露草は青きふたつの耳を持ち深く澄む鈴虫の歌聞く

秋田県大仙市

鈴木 仁

山百合の強き香りにつつまれて友と眺むる名胡桃の跡

群馬県みなかみ町

吉田 まゆみ

たまに来て小まめに動けと子等は言ひ泥つき野菜持ちて帰りぬ

群馬県みなかみ町

高橋

操

川風がサワサワ葉音運ぶ店広き板の間蕎麦すする音

群馬県沼田市

高倉

嶮風

心無き言葉返信したる夜は月にむかひて頭を下げる

茨城県鹿嶋市

兎矢野

雅恵

人参を引き抜く時の充足感人参嫌ひの夫の作る理由わけ

群馬県みなかみ町

中島

早苗

成長をした子しない子みんなの子安全見守る登下校かな

群馬県みなかみ町

番場

正夫

万葉の私注しちゆうに筆執とる文明は両切ピースくゆらせてをり

群馬県高山村 割田 良次

相撲見つつ今夜のおかず考える高安勝ちて肉でもするか

茨城県常総市 太田 きみ子

ハードルを二つ倒してゴールした君だけが手を叩いてくれた

岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢

老いの手のごときがあまた川端につづきて揺るあかねの空に

岡山県新見市 井原 志津枝

新しき巫女迎へ入れ引き継ぎの社務所の窓の声のあかるき

愛知県名古屋市 清水 良郎

高校生以下の部

入賞・入選作品

【高校生以下の部・題詠「湯」】 最優秀賞】 一首

すくつてもすべりおちてく手のお湯の残していった確かなぬくもり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岡田 明日香

【高校生以下の部・自由題】 最優秀賞【】 一首

棚と棚隙間にそつと目を入れる暗闇の中未知の世界

長野県塩尻市立塩尻東小学校 6年 林 和希

【高校生以下の部・題詠「湯」】 優秀賞】 二首

みなかみ湯たくさんある湯湯湯湯湯湯みなかみの湯は気持ちいい湯

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 原澤 淳朗

一口目ためらいながら湯葉を食べ私の口は紅葉のよう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 須江 暖

【高校生以下の部・自由題】 優秀賞】 二首

あの山にこだまするのか鳴き声は夏を知らせる蝉たちの声

山口県光市立岩田小学校 6年 山口 宙輝

恋みくじ同い年の子さけるべし恨んでやるぞ東照宮殿

群馬県立桐生女子高等学校 2年 ラミハ ホサイン

【高校生以下の部・題詠】 選者賞・伊藤一彦選】 一首

立ち上る湯気越しに見る動物が露天風呂にて人となりけり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 林 望愛

【高校生以下の部・題詠】 選者賞・小島なお選】 一首

湯けむりで顔は見えずともそこにいる君の表情考えながら

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 琉衣

【高校生以下の部・自由題】 選者賞・伊藤一彦選】 一首

雪積る山を見てみて思うたは今宵はスノボーすべるで候

群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 好誠

【高校生以下の部・自由題】 選者賞・小島なお選】 一首

君の背を三階窓から見つめてるふりむく顔を桜がおおう

群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 紗弥

【高校生以下の部・題詠「湯」 入選】 二十首

冬の湯に落ちては消える粉雪はいずれ消えゆく思い出のよう

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 阿部 百葉

ゆぶねにねうつるじぶんとにらめっこなんかいやってもひきわけなんだ

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 寺島 ひ花

楽しみは太陽の下で運動し体中から湯気が出るとき

長野県塩尻市立塩尻中学校 3年 風間 唯花

コロナ禍で行動範囲限られて思い出してる足湯のぬくみ

群馬県立沼田女子高等学校 2年 生方 令奈

水風呂に挑んでみたが一秒ですぐ湯に戻る完全敗北

群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋爪 仁那

夏の夜は冷めた湯船がちょうどいい静かにねむるおいだきの文字

群馬県立桐生女子高等学校 2年 西巻 美咲

あいたたた足先入れては引っこめるあたたかい湯がぐさぐさ刺さる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 竹田 知紗

我が未来映してみせよ湯の鏡教えてみせよ真の心

群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 咲樹

朝起きてお湯が出るまでの数分間テレビの前で静かに待機

群馬県立桐生女子高等学校 2年 八木 祐希南

地図上の湯揉みの渦は僕に問う大移動したゲルマン人を

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 尾関 愛未

湯をわかしふくろをあけてかやく入れできあがるまでなにをしよう

群馬県立利根実業高等学校 1年 栞原 直樹

道の駅足湯に入って一息だ何もなくても思い出だ

群馬県立利根実業高等学校 1年 東 聖也

豆腐から蝶のようにひらひらと湯ばがたくさんできあがる

群馬県立利根実業高等学校 1年 増田 琉生

大切な君と一緒にいるときの心はまるで湯のようだ

群馬県立利根実業高等学校 1年 小岸 相夢

湯けむりを寒そうにしてつかもうとこれからも母笑っていてね

群馬県立利根実業高等学校 1年 井口 玲桜

ふと見ると紅葉は色づき湯におちてかすかに冬が歩きはじめた

群馬県立利根実業高等学校 2年 齋藤 美紗希

曾祖父の思い出の味にお湯を入れ思い出語るカップラーメン

群馬県立利根実業高等学校 2年 柴山 みゆ

冬の朝ふと気づけば川に湯気さむいさむいと川の呼吸

群馬県立利根実業高等学校 3年 上保 麻紘

湯に浸かりのぼせ倒れる石階段二度と来るかと言いつつまた来る

群馬県立沼田高校 1年 小野 陽向

寒い日の湯船に浮かぶ柚の実が僕をいつまでも上がらせない

群馬県立沼田高校 1年 新飯田 琉斗

【高校生以下の部・自由題 入選】二十首

日光の燃えるもみじに囲まれて大吉引いた秋の思い出

群馬県立桐生女子高等学校 2年 木村 結衣

たたみのへやしうじのあなを見上げたらあまの川見えた小さく見えた

山口県下松市立中村小学校 4年 福岡 蒼生

空見上げ白き雪が降りし時今年の思い出結晶に映る

群馬県立沼田高校 2年 小野 佑馬

好きな人私といっしょになにかしてるそのつづきはみられないんだ

長野県塩尻市立塩尻東小学校 6年 宮川 綾華

おもかげが今も消えずに流れていく声も匂いも新品のように

群馬県立利根実業高等学校 3年 堤 梨乃

今日もいい明日はもっといいかもな毎日ずっといいがある

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 山本 理恵

露天風呂肩までつかり外を見る森の中の動物のよう

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 翔太

山の中消えゆく朱き鳥の羽心踊ったパラグライダー

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 林 那津

橋の上私を照らす夕暮れ時アイス片手に寂しさを知る

群馬県立桐生女子高等学校 2年 山田 ころろ

江戸村であいさつされて返事する語尾につけちゃうござるの言葉

群馬県立桐生女子高等学校 2年 原子 真奈

伊香保でも草津でもない特別な自分専用我が家温泉

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 真里奈

寒い朝秋風吹けば散っていく昨日覚えた英単語達

群馬県立桐生女子高等学校 2年 前原 百花

ウエイトの練習始めて2カ月ちよい二十キロはもう空気

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 空

未来見て今の自分を考える大沼・小沼見れば明日も変わる

群馬県立利根実業高等学校 1年 戸丸 愛斗

枯れ葉落ち何もなくなるとも次があるその木と共に大きくなるろう

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮野入 まな

思い出を語らいながら友とおでん今この時もいつかは思い出

群馬県立利根実業高等学校

1年

星野 優里華

足集まるテーブルの下場所取りで足けり足けり逃げる弟

群馬県立利根実業高等学校

3年

狩野 凜々香

木の上に登るボールは数知れず葉が散る時季に収穫どきだ

群馬県立沼田高校

1年

高橋 和詩

「二生」の言葉はとても重いけどそのときだけの軽い思い

群馬県立沼田高校

1年

新飯田 琉斗

変わりゆく赤黄緑の感情が激しさを増す秋の紅葉

群馬県立沼田高校

2年

長谷川 耀汰

入賞作品講評

◆ 選者紹介

伊藤 一彦（いとう かずひこ）



昭和十八年（1943）宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島 なお（こじま なお）



昭和六十一年（1986）東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの手伝いをしていううちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中から日経歌壇に投稿し、2004年に最年少で角川短歌賞受賞。現在、「NHK短歌」選者。コスモス短歌会所属。同人誌「cococon」編集委員。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』、『展開図』などがある。

【一般の部・題詠「湯」 最優秀賞】

水が湯に湯が湯気になるように逝った祖父の欠けらを吸ってたのかも

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

水が姿を変えるように、徐々に、自然に死んでいった祖父。命の終わりに寄り添った作者のなかには祖父の欠片が息づきます。おおきな循環を思わせる不思議な比喩。

【一般の部・自由題 最優秀賞】

「大丈夫さ」そう言いながら並びゆくマトリョーシカは霜月の子

三重県津市 樋田 由美

大から小へ、次々に「大丈夫さ」と安心させてくれるマトリョーシカ。彼らはコロナ禍にあって不安な作者の分身かもしれない。「霜月」の響きもいい。

【一般の部・題詠「湯」 優秀賞】

湯上りに太りしと嘆くヴィーナスなれ讃へいだくも山の湯の宿

愛知県知立市 星原 風堂

長年仲よく暮らしてきた夫婦の味わい深い作。妻は太ったと言うが、夫は豊かなヴィーナスだよと讃めたたえる。そして優しく「いだく」。結句も決まっている。

【一般の部・題詠「湯」 優秀賞】

湯の町に客足戻るを願ひつつ夜ごとホテルの明かりを数ふ

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

新型コロナウイルス感染拡大のため、湯の町も客が減っている。「夜ごとホテルの明かりを数ふ」という行為の表現に作者の思いがこめられている。韻律もいい。

【一般の部・自由題 優秀賞】

この時季がいちばん好きというキミの赤系だけが短いクレヨン

群馬県みなかみ町 大山 智也

「この時季」がどの時季かは、「赤系」のクレヨンだけが使われて短くなっているという下の句でわかる。つまり紅葉黄葉の季節。「赤系」の語が巧みである。

【一般の部・自由題 優秀賞】

べえべえの上州弁も近ごろは聞けなくなりて皆足長し

群馬県高崎市 熊澤 峻

「べえべえの上州弁」という三度出てくる「べ」の音が楽しく、上州弁への作者の愛着が感じられる。その上州弁を若者が使わなくなったのを結句で確かに表現。

【一般の部・題詠「湯」 選者賞（伊藤一彦選）】

避難所の夜長さぞかし寒かろうなど思ひ沈む独り居の湯に

秋田県秋田市 加藤 トシ子

災害列島とも言われるように、日本は自然災害が多い。そして、災害のたびに避難所で過ごさねばならない人々が出てくる。そんな人々への深い思いやりが伝わる作。

【一般の部・題詠「湯」 選者賞（小島なお選）】

何も無いなにもなければどふるさとの越後湯沢に雪だけはあり

東京都杉並区 庭野 治男

「ない」という言葉を重ねながら、それでも雪が「ある」と。揺蕩うような展開と韻律に、深々と雪に覆われたふるさとの静寂を思います。寂しく豊かな雪の時間。

【一般の部・自由題 選者賞（伊藤一彦選）】

退院の家路で知れりこの道にわずかな上り下りあること

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

わずかな上り下りなら、普通は気にもとめないだろう。しかし、退院はしたものの病後のきつい身体にはわずかな上り下りも辛い。深い感慨を平明な表現で歌う。

【一般の部・自由題 選者賞（小島なお選）】

言の葉に乗せぬ思ひはそのままに「おいしかった！」で集ひは果てぬ

大阪府河内長野市 木村 嘉子

それぞれが胸の奥に言わないでいる思いがある。でも今この時を大切にするために仕舞っておくのです。「おいしかった！」の明るさと、明るさゆえの少しの翳りと。

【高校生以下の部・題詠「湯」 最優秀賞】

すくつてもすべりおちてく手のお湯の残していった確かなぬくもり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岡田 明日香

単にお湯の残していったぬくもりの歌としてもよいが、すぐれた青春詠として読める。生活の中で大切な何かを滑りおとしても、それはゼロの体験ではないのだと。

【高校生以下の部・自由題 最優秀賞】

棚と棚隙間にそつと目を入れる暗闇の中未知の世界

長野県塩尻市立塩尻東小学校 6年 林 和希

この棚はきつと本棚だと思う。もしかしたら学校の図書室かもしれない。本棚の奥には本よりももつと深い「未知の世界」があるので。好奇心と探究心が溢れる。

【高校生以下の部・題詠「湯」 優秀賞】

みなかみ湯たくさんある湯湯湯湯湯湯みなかみの湯は気持ちいい湯

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 原澤 淳朗

何といっても第三句の「湯湯湯湯湯湯」がすばらしい。第二句の「たくさんある湯」を言いかえたのだが、「ゆゆゆゆゆ」と波立っているような音もたのしい。

【高校生以下の部・題詠「湯」 優秀賞】

一口目ためらいながら湯葉を食べ私の口は紅葉のよう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 須江 暖

修学旅行の場面でしょうか。初めて食べた湯葉の何とも言えない味。口の中に新しい世界が展けたような感覚が「紅葉」に託されています。あざやかで大胆な表現力。

【高校生以下の部・自由題 優秀賞】

あの山にこだまするのか鳴き声は夏を知らせる蝉たちの声

山口県光市立岩田小学校 6年 山口 宙輝

あちこちから囲まれるように聞こえてくる蝉の声。騒がしい声は山から山へ反響するように膨らみ、広がってゆく。夏らしい奥行きのある空間が一首に満ちています。

【高校生以下の部・自由題 優秀賞】

恋みくじ同い年の子さけるべし恨んでやるぞ東照宮殿

群馬県立桐生女子高等学校 2年 ラミハ ホサイン

日光東照宮で期待しておみくじを引いたらガツカリ。それはよくあることだが、作者の表現はしゃれていてユニーク。結句の「東照宮殿」の「殿」もよく生きている。

【高校生以下の部・題詠「湯」 選者賞（伊藤一彦選）】

立ち上る湯気越しに見る動物が露天風呂にて人となりけり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 林 望愛

スローモーションビデオを見ている気がする。湯気のもうこうに動く影が映り、おや露天湯に何かの動物が入りにきたかと思ったら……。 「人となりけり」が見事。

【高校生以下の部・題詠「湯」 選者賞（小島なお選）】

湯けむりで顔は見えずともそこにいる君の表情考えながら

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 琉衣

表情は心そのもの。あたたかい湯気の向こうにけふる君の心を想像しています。そこにいるけれど、まだ深いところまで踏み込めない君との現在進行形の距離感です。

【高校生以下の部・自由題 選者賞（伊藤一彦選）】

雪積る山を見てみて思うたは今宵はスノーボーすべるで候

群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 好誠

楽しい歌である。作者も楽しんでいることは歌のリズムでわかる。「見てみて思うた」の言
い方、「スノーボーすべるで候」の語呂合わせ、作者の才能発揮である。

【高校生以下の部・自由題 選者賞（小島なお選）】

君の背を三階窓から見つめてるふりむく顔を桜がおおう

群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 紗弥

窓から見える後ろ姿の君。振り返った君の顔はどんな表情だったのでしょうか。見
たいような、見たくないような。桜を隔てた二つの心が淡く揺れ合っています。

一般の部【題詠】「湯」作品集

191人 413首
投稿順に掲載

湯治場へ老老介護の兄嫁と秋蚕を終えた妻を連れ行く

埼玉県所沢市 若山 巖

湯のような水を頭からかぶって午後練開始トスバツティング

東京都文京区 遠藤 玲奈

この人も鰻夫やもめならんと思いつつ年のよく似た老いと湯に入る

徳島県阿南市 小畑 定弘

湯を入れて三分待ちの昼飯よ今日はきつねで明日はたぬき

長野県伊那市 市川 光男

ははと湯治の夢を見た朝明けて静かなる父徘徊始む

群馬県高崎市 齋藤 宏子

道下の家へもらい湯西瓜食べ帰り道なる雷強し

群馬県高崎市 齋藤 宏子

逝きし母追ひて泣きたる昨晚の夢思ひ出し湯船に沈み

三重県伊勢市 伊藤 理恵

みそ汁の湯気に茗荷の香りたち今朝の涼しさ白露も近し

岐阜県飛騨市 野村 訓啓

迷ひ一つ温泉玉子の半熟に決意固まる露天の湯舟

東京都足立区 鷺沼 あかね

真夏日を屋根の温水器は滾りたぎいる水で薄めて微温湯ぬるまゆに浸る

大分県竹田市 佐藤 政俊

億年の地質時代のその名残硫黄の匂う湯の中にいる

東京都世田谷区 野上 卓

コロナ禍に客無き宿の湯のけむり夕陽に溶けて暮れ行くままに

大阪府大阪市 後藤 憲之

酒と旅湯宿のいやし有りてこそみなかみ詣で歌聖わびさび

大阪府大阪市 後藤 憲之

月光に湯浴みしている月見草我が目に裸婦の姿目を覆いたり

三重県龜山市 岩谷 隆司

どっぷりと肩まで浸り一日の疲れを癒す湯の舟よろし

三重県龜山市 岩谷 隆司

妻が注ぐ湯加減や良し酒の味飲めば身体に愛が広がる

三重県龜山市 岩谷 隆司

ゆきずりに共に呑み食ふ湯治宿一期一会に心を癒やす

奈良県奈良市 堀ノ内 和夫

近場にて友と湯浴みし一夜さを大衆演劇憂さ忘れさす

岐阜県中津川市 古井 富貴子

ふたりして湯に入り背を流しあう若き頃より今がいいねと

兵庫県神戸市 西塚 洋子

ぷかぷかと小粒の柚子の浮かぶ湯に足をのぼしてしばしくつろぐ

千葉県船橋市 高屋 敏子

今宵又吾娘に守られ湯につかる湯好きの吾の大きいなる幸

千葉県船橋市 高屋 敏子

蝸の歌また遠く届き来て湯の香親しき牧水の宿

秋田県大仙市 鈴木 仁

湯につかりストレッチしてじんわりと身体からだいたわる至福の時よ

千葉県千葉市 うめさわかよこ

かぜのたび葛湯を作りくれし祖母仮病と知りし日にも変らず

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

山の湯に母を誘ふことなきを悔いても遅しせめて香を上ぐ

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

湯屋までも蚕に追はれ外風呂で覚えし五つの星を忘れず

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

鉄瓶が湯を滾らせて鳴る音を郷愁とする老いでありたり

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

湯の町のあかりを波に砕かせてゆく利根川のほとりに生きる

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

今はもう水底なりし笹の湯に入湯す我まだ赤子なり

群馬県みなかみ町 奥村 清美

下駄の音絶えて久しき湯治場にみんなみん蝉の声降りしきる

群馬県みなかみ町 奥村 清美

大粒のぷつくり枝豆塩ふればその名も美味し湯上がり娘

群馬県みなかみ町 奥村 清美

検温やマスクの検査厳しくも名湯草津にうからと一泊

群馬県沼田市 堀越 京子

休日の家族と行きしサイクリング水上の湯に夜を楽しむ

群馬県沼田市 堀越 京子

故里に残せし君や旅の湯に恋々と咲く山百合の花

群馬県渋川市 竹内 乞ふ吉

亡き父がギター奏でし湯の町や今はひつそり虫の音響く

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

顔うへに肩までひたりお湯の中腹の底から溜め息の出る

群馬県みなかみ町 本多 義二

「いつまでも元気でいてね」妻が言う湯呑み傾け空仰ぐ雲

群馬県甘楽町 齊藤 淳子

いい湯だな君とのケンカもやもやと混じってかすんではあびバノノ

群馬県富岡市 井田 こずえ

温泉の外湯に浸かり暮れなすむ会話も弾み空にキラキラ

群馬県みなかみ町 篠原 忠

子育てに追われし頃は白湯のごと今は茶を飲み安らぎの時

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

煌めいて温泉宿へ誘い込む竹灯笼の湯気模様たち

群馬県みなかみ町 田中 春枝

共同湯帰り幸せみいつけた前行く背中大小二つ

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

おさなごを湯に入れるのが大仕事浸かる間もなく洗う間もなく

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

「あつハート」散らばる長ねぎセンマイの湯気の向こうは現実主義者

群馬県みなかみ町 篠原 香代

暗がりの明るく灯る湯畑に夏虫のよう人が群がる

群馬県みなかみ町 大山 智也

浜名湖の館山寺温泉寝湯に入り朝をしずみてみどり眺むる

富山県高岡市 古澤 澄子

苦学せし姉弟が互いを励まして湯豆腐囲んだ遠いあの夜

群馬県みどり市 志田 貴志生

四つ這ひて田草取りしよ湯のやうな水にこの足踏ん張りながら

山口県宇部市 藤井 重行

酒も湯も陸び旅した牧水の愛づみなかみは今も息衝く

群馬県沼田市 美 泉

丹前を肌身離さぬ父の手がたったひとつの湯呑へ伸びる

岩手県盛岡市 館洞 嗣雄

語り部の岩手訛りに聞き惚れて民話にひたる雪の湯宿に

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

白き湯は朝の陽差し込み黄金波万座の宿に仲間とはしゃぐ

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

湯口より千式百年湧き続くみなかみの宿に孫ははしゃげり

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

亡き妻の思ひ出残る湯畑の石柱なぞり娘と孫とゆく

群馬県沼田市 今井 栄一

湯の元の「管理やるぞ」と言ひぬしがリストラされて父鬱ぎこむ

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

朝いちばん湯船に浸かりゆるりとす腰の痛みも少しやはらぐ

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

コーヒーの湯気に向こうに祖父の顔ふつうの日々の幸せを思う

大阪府摂津市 高橋 好恵

我が影を叱咤しながら湯の町にちゃっかり空ゆくロープウェイみる

東京都足立区 佐藤 春夫

山の湯の露天の客の懐かしき「上州弁」にこころ温みぬ

群馬県高崎市 田島 美徳

避暑かねて吟行の途に奥利根へ日暮れてやうやう湯の小屋の宿

群馬県高崎市 田島 美徳

霧積の八十の「帽子の詩碑」読めば湯の香にのりて蝸のこゑ

群馬県高崎市 田島 美徳

杖をひく日課となりし散歩より帰へらば朝から菖蒲湯の待つ

群馬県伊勢崎市 野口 弘

出勤の合間に覗く息子らは茶の湯の冷めぬ隔たりを置く

群馬県伊勢崎市 野口 弘

厨房にやはらか陽差しさし来ればゆらげしのぼる湯の気は踊る

群馬県伊勢崎市 野口 弘

牧水絵の瓢ひょうに先ず注し一人飲む小さき湯宿の二本目の酒

群馬県みなかみ町 細矢 九谷

カフェラテの湯気をくすぐる君の声ほのかな甘みがわたしに届く

群馬県前橋市 木下 美樹枝

熱き湯に入り減量始めしと涼しき顔に帰省の孫の

群馬県沼田市 田村 鶴江

湯の丸の高原覆ふ霧はれてつつじの間に間に乳牛現る

群馬県沼田市 田村 鶴江

ぬるき湯に上がる決意もできぬままかなしきものを見つめておりし

岡山県和気町 行正 健志

浴衣着てモデル気分ポーズ取る八十路に近し湯宿の一枚

群馬県みなかみ町 細矢 ケイ子

古里のいで湯に浸り人気無くしばし現身はなれていたり

宮城県宮崎市 熱田 民恵

瞑想に耽るがごとき面貌の浮きて野猿の湯けむり浄土

宮城県仙台市 角田 正雄

十八湯谷川眺め気分よく八十路の夏を人暮す町

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

このみちはクラスタアのみはびこみて湯が流れるに人影もなく

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

熱い夏町の花々つかればはて水をくれても湯にかわるほど

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

仕事終え湯から上ればテレビから流れることばコロナの話し

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

みなかみは湯の香ただよふ山と川コロナ追い出し人呼びこめる

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

沢渡りの湯宿にひとり旅終へて短かき母の一世を偲びぬ

群馬県みなかみ町 高橋 操

古里に帰りし夜は心地良き背戸の辺りにお湯の匂ひす

群馬県みなかみ町 高橋 操

湯が出ると代代伝はる湯前田今は稲穂の波うねりをり

群馬県みなかみ町 高橋 操

湯の中は青葉に染まる作並の外湯を満たし春蟬の鳴く

群馬県みなかみ町 高橋 操

ふんだんに湯を使ふ日日過しつ手桶で運びし母強かりき

群馬県みなかみ町 高橋 操

湯あがりの酷暑逃れて夜の清庭ひときわ光る流星を見る

群馬県沼田市 高倉 嶸風

夜は雨と予報の雲は流れゆき蒼穹写す遊神の湯

群馬県沼田市 高倉 嶸風

半月が築三十年の時を至て湯殿の窓に光りかがやく

群馬県沼田市 高倉 嶸風

秋津舞ふ出湯みなかみ下に見て牧水偲び歌碑の村ゆく

群馬県沼田市 高倉 嶸風

石楠花に朝顔が咲く湯の里はコスモスもまた背伸して咲く

群馬県沼田市 高倉 嶸風

ひんやりと澄みし空気の間を湯煙のごと霧登り行く

群馬県みなかみ町 奥村 清美

今宵また食卓並ぶ冷ややつこそろそろ恋しき湯豆腐の温み

群馬県みなかみ町 奥村 清美

蛇口よりお湯の温度を手にさぐり顔を洗いぬ秋の彼岸に

群馬県高崎市 秋山 充利

湯中りの体横たふる目の前に何時もの事とて金魚の嗤ふ

岐阜県中津川市 吉田 順代

湯の湖より白く激しく飛沫あげ湯滝は若葉の中流れ落つ

群馬県川場村 桑原 謙一

牧水の歌碑巡りきて谷川の青葉のひかり揺らぐ昼の湯

群馬県川場村 桑原 謙一

湯沸しの目盛りを上げて皿洗う今朝の気温は氷点下九度

群馬県川場村 桑原 謙一

湯本といふ苗字ばかりの近所なり我は旧姓植野であるが

茨城県結城市 湯本 康二

虻のがれ露天湯に入る野趣ありて雷鳴にはかに夕立を浴ぶ

兵庫県洲本市 大村 博子

白濁の湯にひたりつつホトトギス啼き声聞こゆ黒湯温泉

岩手県盛岡市 森 義真

伊香保の湯を湯元に飲めば鉄分の甘味ほのかに飲み門潤す

群馬県渋川市 白勢 庸夫

荒海に今日の業終へ湯に集ふ赤銅色に至福の夕べ

大阪府河内長野市 木村 嘉子

温泉の 別荘の広き 湯船に 父と泳ぎし 幼き夏に

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

「風邪ひくな」と 祖母と浸りし 柚子湯の夜、皆勤賞の 境小学生

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

「こんばんは。失礼します」と 菓大の 声かけ規則、女子寮の湯で

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

母の湯に 十分毎に 声かけし 「大丈夫かい？」 「大丈夫だよ。」

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

花びらを 湯船に散らし テレサテン 口ずさむ昼、別宅マンションで

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

夜目白き湯畑の湯気のなつかしき母を想ふよ夫を想ふよ

群馬県みなかみ町 深澤 みどり

湯松曾川のほとりに小さき露天風呂惚けてひと日を長く遊びき

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

水澄みし出で湯の里に生れたるわが身愛しき七十七歳

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

水上より帰りし母は手ぬぐひを干しついつい湯だつたと吾にかたりぬ

群馬県高崎市 深澤 巴

曾孫の帰りしあとの風呂の湯におもちやのあひるが首をふりをり

群馬県高崎市 深澤 巴

友等みな帰りしあとの風呂の湯に一人手術の胸かくし入る

群馬県高崎市 深澤 巴

あなたとの思い出の湯屋めぐつてる今宵満月朧に見ゆる

大阪府羽曳野市 皆 春

「瞬間湯沸かし器だね」とおこりんぼの孫に言えども「訳わかんない」

鳥取県米子市 生田 麻也子

嫁ぎ来てはじめて焼べき五右衛門風呂湯加減よしと義父のひとこと

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

滝音の聞こゆる露天の湯に入れば雨のしずくは新緑に落つ

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

手のひらでまづ確かめてじんわりと吾子の背中に流す秋の湯

広島県広島市 熊谷 純

米を持ちばあちゃんたちと湯治場へ記憶はありて跡形はなし

群馬県みなかみ町 本多 義二

露天風呂眼鏡の向こう天女見た喜ぶ妻は湯けむり美人

群馬県甘楽町 齊藤 淳子

美容室洋服代に化粧品湯水のように出費がかさむ

群馬県富岡市 井田 こずえ

冬いで湯湯気がモクモク元氣出て外のぬるま湯寒さに耐える

群馬県みなかみ町 篠原 忠

憧れて海の見える露天風呂湯は細々と肩寄せあつて

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

湯に浸かり遠い昔を思い出す母と一緒の笑顔の日々を

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

湯に浸かり幸せそうなぐんまちゃんポスターの顔思わずカシャリ

群馬県みなかみ町 田中 春枝

旅行いきパンツ忘れてコンビニへ湯畑見つつ傘さし歩く

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

おさなごと湯に入るのがうれしくて急ぎ帰った若き父親

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

「湯の歌をつくつちやいな」とストローを銜えて涼し気道後のスタバ

群馬県みなかみ町 篠原 香代

今日もまた疲れて帰宅ボタン押す「お湯張りをします」答えるキミ

群馬県みなかみ町 大山 智也

仕事終へ父はいつもの共同湯帰る姿は「パンツ一枚」

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

店先でまんぢゅう蒸かす湯気もなし浴衣姿の客来なければ

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

山なみは青く滴りみなかみの出湯に火照る肌に映えたる

茨城県東海村 風森 漣翠

孫達と森ふところの露天湯に時を忘れて身疲れ癒せり

群馬県前橋市 小畑 吉克

湯上がりはいつも私が待たされてごめんと君が差し出す牛乳

青森県青森市 高橋 圭子

手を貸して夫の入浴湯を掬い頬にあてては満ち足りし貌

神奈川県座間市 蓮見 孝子

紅葉手に背を流されて冬至の湯生死彷徨う君は六歳

北海道札幌市 鎌田 誠

歌人のゆかりの湯宿閉ざされて山の姿は変はることなし

埼玉県さいたま市 前田 明利

緑から赤黄錦と変はりゆく山峡やまかひの湯に病魔のがを遁れ

埼玉県さいたま市 前田 明利

電線に並むつばくらめ腹白く暮れゆく湯の街通る人なく

埼玉県さいたま市 前田 明利

湯の里の遊覧馬車の今いかにコロナの今を馬、馬子いかに

埼玉県さいたま市 前田 明利

浴衣にて土産物買ふ人も見ぬそぞろ歩けばほんのり湯の香

群馬県みなかみ町 奥村 清美

早朝の湯気立ち上る店先に甘く漂ふまんぢゅうの香

群馬県みなかみ町 奥村 清美

ふとところに湯の湧く谷を抱きぬる谷川岳は岩の山なり

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

立ちのぼる珈琲の湯気に始まる昨日と同じそして違ふ日

群馬県みなかみ町 中島 早苗

被災者の湯につかりてのあの笑顔幸い時には解らぬ極楽

群馬県みなかみ町 中島 早苗

日暮刻どこの宿にも灯が点り湯の街さかりし昭和の時代

群馬県みなかみ町 手塚 光子

湯の街に三味の音色も遠のきてコロナに怯え客足のなく

群馬県みなかみ町 手塚 光子

湯の街の賑わい今わ夢のごと盛りし日々を友と語りぬ

群馬県みなかみ町 手塚 光子

湯の街に芸娘の姿も久に見ずコロナの被害に声も途絶えて

群馬県みなかみ町 手塚 光子

今日ひと日湯舟につかり幸せをしみじみ思ふ夜の静寂に

群馬県みなかみ町 手塚 光子

郭公の鳴く昼の事たつぷりとうどんの為に湯を湧かしおり

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

湯加減はいかがでしようと呼べば熱いとうどん吹きこぼれてる

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

水沢うどんの背中を流す 湯に背骨をちゃんとおいてきている

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

郭公の去る昼下がり湯上がりのうどんは箸に口づけをする

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

湯冷めしてくしゃみの一つでそうかな卵をいれてうどんを煮込む

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

戦時下の真夜の産湯のほどよきに湯好きとなりし吾が人生よ

千葉県船橋市 川崎 富子

三角点に立てば麓の湯が待ちて必死に登り必死に下る

愛知県豊橋市 篠田 武子

足の豆の崩れを避けて足の湯にそりり十本泳がせており

愛知県豊橋市 篠田 武子

登山靴を脱ぎ露天湯に身を沈めひとひらふたひら紅葉拾いぬ

愛知県豊橋市 篠田 武子

お互ひに痩せたる身体口にせず背中流し合ふ湧き出ずる湯に

群馬県高崎市 湯浅 茂子

息吹きて啜る重湯の一匙につなぐ命を盛れば重たし

山口県光市 瀬戸内 光

湯につかり今のコロナ禍考える孫に会えないままに晩秋

宮崎県日向市 黒木 直行

長湯してゐれば案じて「大丈夫か」と言つて戻つて行きし亡き夫

秋田県秋田市 加藤 トシ子

湯で洗う菜に驚きし歌人訪ふ辻に歌碑建つ谷川の里

群馬県みなかみ町 番場 正夫

農閑期祖父に連れられ湯治場で過ごやし幼期懐かしきかな

群馬県みなかみ町 番場 正夫

湯客絶へ高き下駄音消え去るも溪に渦巻く利根の清流

群馬県みなかみ町 番場 正夫

SLの汽笛に呼応するがごとゆらりと昇る峽の湯けむり

群馬県みなかみ町 番場 正夫

湯浴み兼ね趣味の写真家押寄せて車さまたぐ照葉峽かな

群馬県みなかみ町 番場 正夫

琴を弾き 茶の湯を立てたる 薬大の 学園祭 紅葉の季節ときに

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

サザン聞き 瞳とじれば 紅茶の 湯気のかなたには 青春の景色

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

冬至の夜 伊勢崎名物 煮ぼうとうの 湯気の向こうに 母の笑顔あり

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

お風呂場で蛇口回せばお湯の雨片手に残る石鹸の泡

群馬県みなかみ町 本多 義二

3分が待ちきれないと湯を注ぐ午後の至福のカップラーメン

群馬県富岡市 井田 こずえ

松風呂朝日を受ける湯面に湧き出る気泡広がる紅葉

群馬県みなかみ町 篠原 忠

海水浴小さき子らのよろこびは湯気わき上がる雨の露天風呂

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

寒い夜は湯湯婆ひとつ足下に明日も良い日であるよう祈る

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

湯加減と指圧の強さ心地よく居眠りしてたシャンプー台で

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

一日の疲れを取るぞいざ参るひと風呂浴びて湯は極楽だ

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

バスタオル一枚まとして仁王立ち湯上りビールなぜか腰に手

群馬県みなかみ町 塚川 紗妃

平然と今夜もキミを温める湯たんぽの湯になれたらいいな

群馬県みなかみ町 大山 智也

湯の中で踊る玉子がころころとたまごサンドのゴール目ざして

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

立つ湯気の狼煙の如き炊き出しに息立ちのぼらせる罹災民

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

御田にも御御御付けにも御茶すらも湯気の立つ事なき老夫人

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

八連勤終わって湯にかき抱かれ酸素が奪われてく青年

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

7がきえ16が12へ進む湯船で今日も遭難する子

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

寒い朝きもち良さげに湯たんばがごっぽんごっぽん水を吐いてる

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

山里の小さき湯の宿掛軸や晶子直筆指なぞり読む

群馬県みなかみ町 阿部 良洋

その昔蚕上簇その後露天五右衛門湯呑み懐し

群馬県みなかみ町 阿部 良洋

極暑日にコンクリの庭に水撒けば湯気たつほどの小さき風生む

群馬県みなかみ町 林 恵美子

老いてなほ旅にかられて上毛のかるた縁りの出で湯めぐらむ

群馬県みなかみ町 林 恵美子

入浴剤いれて和むや内湯にて歌など唄ひて長湯となりぬ

群馬県みなかみ町 林 恵美子

下の娘が退院なると妻が言う あの日あのと産湯を沸かし

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

山王の祭礼に呼ばれしあの昔 湯呑み茶碗で直会となり

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

婚礼か茶の湯の席か蛇の目傘 何はともあれ日出度き日なり

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

山里のいずれ廃墟か父母の家 供花も湯茶とも粗末となりし

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

水上駅より湯檜曾まであるきたり遠目にさやか藤のむらさき

新潟県新発田市 三浦 ユリコ

露天湯の藤は今年も咲いたるかコロナで行けぬ申ヶ京ホテル

群馬県みなかみ町 高橋 吟子

雪解の利根の山々ほかほかと湯気立つごとく若葉萌え出す

群馬県みなかみ町 高橋 吟子

今は亡き父母と娘と訪ひし日が浮かび来るなり奥利根の湯に

群馬県榛東村 高橋 恵

牧水の『みなかみ紀行』繙けば酒と湯の香の立ちのぼりくる

東京都町田市 谷川 治

飲みかけの湯呑みが二つ縁側に釣瓶落しの暮れ迫りくる

東京都町田市 谷川 治

無一物で生れてきたる赤ん坊つかふ産湯も徒手空拳

東京都町田市 谷川 治

水上の湯宿で耳にすカタコトの外国人よりおもてなし受く

群馬県高崎市 猪俣 軍司

柩にて父はようやく四肢のばすドラム缶風呂の父でない父

群馬県高崎市 猪俣 軍司

あの辺り川原湯駅は沈みきと姫は語りダム湖指さす

群馬県高崎市 石井 省三

キャンペーンの宿の温泉夢みつつ家で薬湯 高齢なれば

群馬県高崎市 熊澤 峻

湯の中に開いた蕾を見るように山霧のなか笑つてる君

三重県津市 樋田 由美

ゆずの香の今宵ほどよきぬるま湯が疲れたる身も心も溶かす

青森県八戸市 木立 徹

夕雲に松山城のシルエツト佇ち尽くしおり湯渡橋に

愛媛県松山市 宇和上 正

湯の街のみやげもの屋にわが友は見切りついたり展望持てず

愛媛県松山市 宇和上 正

天空を窓より見上ぐ遍路宿出会いし人と共に浴びる湯

香川県丸亀市 寒川 靖子

村人の望み集めて掘りし湯は心和める息吹の湯なり

群馬県高山村 割田 良次

四万川の清きせゝらぎ聞きながら露天の湯にて星座見上ぐる

群馬県高山村 割田 良次

重ねし歴史を秘めし川原湯のダム湖に沈む湯宿に憩ふ

群馬県高山村 割田 良次

ダム底に沈む運命の川原湯を惜しみつ泊る高田屋の宿

群馬県高山村 割田 良次

八ツ場のダム湖に沈む川原湯の熱き湯舟の山木屋旅館

群馬県高山村 割田 良次

湯につかり温泉まんじゅう湯の花をみやげにゴーツートラベルの旅

神奈川県横浜市 高山 克子

孫来れば共に湯船につかりしをそれもなくなり早や一年が

神奈川県横浜市 高山 克子

柚子風呂のお湯につかりし孫達の体を拭けば甘き残り香

宮崎県日向市 黒木 金喜

「湯の沢」とふ名なればいにしへ湯の流れをみなら燥き集ひあつたやも

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

ほつくりと甘き湯気立ち焼き芋の部屋に香れば冬の入口

群馬県みなかみ町 奥村 清美

ふつふつと湯気が上がる鍋ふた取れば眼鏡くもりて笑顔あふるる

群馬県みなかみ町 奥村 清美

ひとつだけ割れあるゆづを湯に浮かべ一足早い冬至の気分

群馬県みなかみ町 奥村 清美

寒夜の産婆の指示に従いて湯を沸かしている鍋の輝き

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

寒夜の手の馴染ませる湯は久によるこぶ指を零れゆくかも

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

寒夜の沸かしたる湯に母と子の絆し切り裂く鉄銚煮る

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

その母のなごりの熱の湯気に満つみどりごのふるわせる福音

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

寒夜の抱く盥の抱く湯の抱く襦袢の抱く血穢

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

ウイルスに振り回された長き日々 いつもの湯宿に身を沈めたき

福井県小浜市 玉井 令子

焼岳を亡夫と望みき奥飛騨の足湯のそばのななかまどの赤

福井県小浜市 玉井 令子

支えられ湯水は背なを流れ行く母は旅立つ5才を置いて

群馬県前橋市 長谷川 陽子

霜月の湯の小屋川の風寒く照葉峡は早や冬の気配す

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

湯檜曾川湯の小屋川に温湯川わが利根川に湯を注ぎ入る

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

からころと下駄の音聞く湯の町の語り草なる遠き日何処

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

樋の湯を手の平で飲み目を洗ふ村湯は今もふるさとの味

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

終ひ湯でいつもの鼻歌聞こへぬと「大丈夫か」と夫声掛ける

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

朝靄の溪ふるはせて河鹿鳴くなつかしきかな山の湯の宿

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

露天湯に笑顔こぼして語り合う春のひと日を我等旧婦人会

群馬県みなかみ町 高橋 やま

手を触れて湯加減を見るそれ昔今電子音お風呂湧きました

群馬県みなかみ町 高橋 やま

夢にしか会えない親友よ思ひ出よ湯舟に交はせし笑顔忘れじ

群馬県みなかみ町 高橋 やま

朝茶酌む湯気の向こうに夫が居る苦楽を共に婚七十四年

群馬県みなかみ町 高橋 やま

赤飯の湯気立つ厨^{くふや}甘き香よ今日はめでたい豊年まつり

群馬県みなかみ町 高橋 やま

梅^{うめ}見月^{みづき}拍手の音響く朝君の合格湯島で祈る

千葉県市川市 竹谷 華林

湯宿より送られし梅の土用干し色良く仕上り今夏の暑さよ

北海道千歳市 後藤 みどり

旅の宿露天風呂にて湯けむりの白き姉の背に上弦の月

茨城県常総市 太田 きみ子

湯けむりに笑い合いたる友らいて過ぎ去りし日の想い出追いつ

茨城県常総市 太田 きみ子

しまい湯に足を伸ばせばこおろぎの畑仕事の暑さ忘れり

茨城県常総市 太田 きみ子

羊水の記憶有るのかみどり児は産湯の中でひたすら眠る

群馬県沼田市 桑原 環世

湯を注ぎ今年の出来を語りつつ新茶の薫りで満たされてゆく

群馬県沼田市 桑原 環世

リフォームし松の匂いさやかなる湯船につかるひと時至福

大阪府岸和田市 向井 靖雄

威勢よきゲートボールの人々の声に目覚める出で湯の里に

群馬県伊勢崎市 木村 あい子

湯上りの浴衣の妻と酌むビール子育て終えた二人の旅路

大分県国東市 原 比呂子

年新夫婦湯呑は九谷焼白七宝で喜寿を言祝ぐ

大分県国東市 原 比呂子

ぬるま湯で髪を洗えば耳元で春がささやく「ゆつくり急げ」

岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢

曇りいる鏡の奥に湯上がりの器用と言えぬ喜寿の吾あり

宮城県仙台市 高橋 義仁

十余年亡夫の通ひし「鶴の湯」よ天気予報は愛知に秋田

愛知県蒲郡市 牧原 正枝

手ぬぐひを黄色く染めし伊香保の湯亡き父しのぶ唯一のよすが

群馬県前橋市 松下 昭代

寒気きぬ吐く息白き夕暮れは湯温二度あげ首までつかる

群馬県前橋市 松下 昭代

秋色に染まる湯の里谷川に牧水の歌碑訪ねて巡る

群馬県みなかみ町 阿部 伊亨

懐かしき心張棒の貸し切り湯古風な宿に心和めり

群馬県みなかみ町 阿部 伊亨

湯の里に灯りもどりて安堵するコロナの闇の深きあなたに

群馬県みなかみ町 石坂 作次

我が里は牧水晶子の辿りたる憩いし出湯は今も変わらじ

群馬県みなかみ町 石坂 作次

産土の利根の出湯に憩いたる牧水偲び熱燭に酔う

群馬県みなかみ町 石坂 作次

湯の里に今年もつるす大草鞋疫病阻む伝承たのもし

群馬県みなかみ町 石坂 作次

利根川の産土の地は我が町ぞ熱き出湯は待つや旅人

群馬県みなかみ町 石坂 作次

昔人の旅籠に着けば先づ盥でて来しやうに足湯につかる

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

幼日に母と過ごせし湯の宿に川菜^{かわな}を食みし日を思ひ出づ

群馬県太田市 白石 政江

湯巡りをしたき思い募れども果せぬままに歳は暮れゆく

群馬県太田市 白石 政江

紅葉にいまだ至らぬ葉のひとつ降り来て昼の湯をとにもする

京都府福知山市 阪根 まさの

古墳ある寺に給ひし柚子数顆今宵ゆず湯に長く浸れり

群馬県高崎市 佐藤 香林

裏山に生れる木のゆず柚子湯へと近所に配るを樂しみし母

群馬県高崎市 佐藤 香林

風呂場からいい湯だったと母の声蚕の桑くれ今日も仕舞湯

群馬県榛東村 岸 和夫

野良チャン草ざぶとんにのっかっておめめを細めいい湯だニヤン。

群馬県みなかみ町 深代 里子

風呂水を池より運びし遠き日を思ひつつシステムバスの湯にひたる

岡山県新見市 井原 志津枝

奥深き露天温泉すっぽりと雪に覆われ雪の湯に入る

群馬県千代田町 大谷 徳湖

伊香保の湯に子らの祝ひてくれし喜寿つぎなる米寿を待つや待てずや

群馬県昭和村 板橋 きみ江

雪山を見放けて蒟蒻掘り終へぬ早ばや湯浴みの宵豊かなり

群馬県昭和村 板橋 きみ江

老いぬればわれの樂しみ入浴剤能書き読みては湯舟に遊ぶ

茨城県笠間市 飯田 初江

菜萁の木の下の外湯に曾祖母の背を流したるわれの遠き日

茨城県笠間市 飯田 初江

コロナ禍の終息未だ一人旅湯宿の窓辺に病葉^{わづらば}の舞ふ

群馬県みなかみ町 割田 一

山荘の外湯へ向かふ石畳闇をふるわす下駄の足音

群馬県みなかみ町 割田 一

まだできぬ今日で締め切り日の出まえまほうびんからお湯をそそいで

群馬県みなかみ町 本多 義二

その言葉ちよつと待ってよカチンとな耳の穴から湯気が出そう!

群馬県富岡市 井田 こずえ

湯を沸かし朝の寒さに白い息漢方飲んで準備完了

群馬県みなかみ町 篠原 忠

湯の中へ野葡萄の葉ひとつかみ一緒に飲んだ友今は亡き

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

手作りのコンニャク湯がき里芋と煮込めば嬉し家族の笑顔

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

女湯の暖簾押し上げ頬染めて笑うあなたは金歯眩しく

群馬県みなかみ町 田中 春枝

湯けむりのたちのぼる道もくもくとひたすら歩く背中追いかけて

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

入れ立ての湯気の立つ茶を飲み干して茨の道を好んで進む

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

湯気という微風に煽られ舞うかつおぶしチャンプル食べる今晚も雨

群馬県みなかみ町 塚川 紗妃

十代の冷めた水すら一瞬で湯にするほどの情熱ほしい

群馬県みなかみ町 大山 智也

露天湯に溺るる蜻蛉手に掬うしばしの後に秋室へ立つ

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

猛暑日にぬるま湯となる水槽に金魚二匹が浮きて死に居り

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

銭湯のコーヒー牛乳一気飲み遠く懐かし青春時代

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

朝起きてコップ一杯白湯飲めと病気知らずの叔父の格言

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

浴槽を水槽として再生す湯舟ひろびろ揺らめく金魚

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

湯浴するカピバラおっとり人気者動物園も間合守りて

群馬県みなかみ町 増田 津恵女

紅葉狩、観光行かずコロナ禍の終息願う庭での足湯

群馬県みなかみ町 増田 津恵女

コロナ禍の増え続くとふ畑終えてひとりゆず湯に疲れ沈むる

群馬県みなかみ町 増田 津恵女

湯けむりに誘われしばし手湯足湯小鳥の声にこゝろ安らぐ

群馬県みなかみ町 遠藤 長代

みどり児に菖蒲湯はまだ早しググりて知りぬ祖母なり立ての

宮城県宮崎市 岩切 喜久代

露天風呂の湯に浸かり雪を眺めし日もう一度はかなわぬまま母は

岐阜県飛騨市 横山 美保子

旅の宿のをうな三人は時差をつけ湯に入る小・巨・乳房喪失

静岡県沼津市 柳田 治美

かけ算を習いし孫は祖母の背を流しつ今宵湯船で唱和

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

吾の旅路筋書そつと覗きたし孫に囲まれくず湯をすする

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

初孫の産湯に沸きて二十年祖母結い上ぐる振袖の帯

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

みなかみの雪舞ふ露天父母囲み昭和の湯浴み眼裏に浮く

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

ススキの穂ゆれる高原山の宿夕陽眺めつ野天湯に入る

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

絶景の山々眺め湯につかる馬曲温泉紅葉の中

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

山峡にガス灯ともるみちのくの銀山温泉湯煙りの中

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

星月夜秘境湯宿一人旅紅葉浮かべて野天湯に入る

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

紅葉の山より下山湯につかる仲間と共に疲れを癒す

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

湯の宿に急ぐ吊り橋ゆらゆらと田植終いの家族揃いて

群馬県みなかみ町 林 好一

湯の香たつ我が家の小さき浴場は草津も伊香保も湯の花次第

群馬県みなかみ町 林 好一

カジカ鳴く瀬音を枕に露天湯のにじむ灯りに身体あずけて

群馬県みなかみ町 林 好一

コロナ禍で籠る日続く八十路の身お風呂のお湯で幸を祈りて

群馬県みなかみ町 林 好一

山歩き目指す山頂越えて来て浸かる露天湯紅葉浮かべて

群馬県みなかみ町 林 好一

たし湯する風呂に心を遊ばせて溢れる音に我に帰りぬ

群馬県高崎市 天田 勝元

五階なる湯宿に見放くる赤谷湖のシャッターチャンス賀状もせしや

東京都杉並区 堀井 邦子

湯の町に生れ育ちし友の家廃屋となり落葉降り敷く

群馬県沼田市 保坂 スミ

晩菊を飾りて君待つ昼下り湯気の向こうに秋の山脈

群馬県沼田市 保坂 スミ

若き日に出で湯の宿で誓ひ合ふ看護の道に身を捧げんと

群馬県沼田市 保坂 スミ

一万首検索しても出てこない酒豪牧水「白湯」は苦手か

愛媛県新居浜市 大賀 康男

谷川の雄姿眺めつ露天の湯コロナで久し手足伸ばして

群馬県みなかみ町 諸 田 弘

湯の小屋の一軒宿に十八湯友と制覇す二日がかりで

群馬県みなかみ町 諸 田 弘

川音の聞こえる湯舟を一人占めコロナ禍あえぐ山あいの里

群馬県みなかみ町 山崎 樹彦

シャクシ菜の湯漬けに残る遠来の友と語らう晩秋の宿

群馬県みなかみ町 山崎 樹彦

こぞよりは庭のもみじのふかきかな湯舟ひたひたコロナ禍の日々

京都府舞鶴市 新谷 洋子

病む私の胸を撃ちたる諦めぬとふ被災湯の街の球児宣誓

群馬県安中市 新井 八重子

三河武士徳川家康の産湯井戸松風の下苔深くあり

愛知県岡崎市 中村 佐世子

湯加減を老母にドア越し尋ねたり「眠っちゃおらん」と低き声する

愛知県岡崎市 中村 佐世子

湯に浸り経し年月を思ひつつ裸身の著き老いに気づきぬ

神奈川県川崎市 藤原 礼子

湯上がりの気ままな裸男たり妻の一喝またも食らひつ

香川県三豊市 上久保 忠彦

香り立つ夜顔の花五つ六つ湯舟に浮かすこの月の夜

神奈川県愛川町 富田 茂子

湯の華の番人みたり山籠る紅葉ふみわけ息白くして

広島県広島市 小野 系子

今年また義母の植ゑたる緑き実はさやかに香る秋のぬる湯に

広島県広島市 小野 系子

寒空に直なる湯気を上らせて造酒屋の仕込み始まる

群馬県川場村 林 郁男

雪山の峡より上湯煙を妻と見て酌む金婚の宿

石川県金沢市 前川 久宜

突然に雷落とす教師ありて貰ひし渾名「瞬間湯沸器」

石川県金沢市 前川 久宜

恐る恐る赤子の胸にガーゼかけ新米パパは産湯に挑む

群馬県渋川市 木暮 由利子

尻焼の川の底から湧く微温湯肩に舞い来る紅葉一枚

群馬県みなかみ町 真庭 三枝子

花あかり野点のだての湯茶に月の影花びらひとつ浮かべ喫する

群馬県みなかみ町 真庭 三枝子

しづまりて湯の街湯原を昼日なか群青色のかわゆきすみれ

群馬県みなかみ町 真庭 ヨシ子

秋の夜の湯槽に浸かり目が閉じる滴の音に目をあけて見る

群馬県みなかみ町 本多 義二

お茶休みしようとするとう事でき飲める頃には湯気なしコーヒー

群馬県富岡市 井田 こずえ

紅葉の湯川でキャンパーベキュー焼き焦げ付いた南瓜と魚

群馬県みなかみ町 篠原 忠

一時間山道登り辿り着く猿の温泉湯だけ流れて

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

初孫を産湯に入れて気持ち良く笑顔を見つめほつと一息

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

母の背に湯を掛け流し白い泡一瞬に消え夢から覚める

群馬県みなかみ町 田中 春枝

薬味つけ熱い湯豆腐食べてみる：旨いんだけど火傷寸前

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

あがり湯をそつとタオルで拭き取って着替えた後はゆつくりご飯

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

フリーペーパーから上がるカルビの湯気見えそつで笑う箸持つ君が

群馬県みなかみ町 桂田 紗歩

気合い入れ寒空のした外仕事オーラのごとく湯気たつ背中

群馬県みなかみ町 大山 智也

牧水の浴びた湯船に我つかり水上館で歌人うたびと偲ぶ

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

夕暮て紅い灯ともる水上の湯煙るかなた雪の谷川

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

山の中湯の香ただよう温泉にそよ風流れ虫の声聞く

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

人体の突沸ふせぐりチウムを沈める素湯がずつとわいてる

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

厳寒に湯葉の葉厚くなりにつけり歳暮に老ゆる皺のうつくし

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

魂のあり処さぐり発つ酒の湯気に若山牧水がいた

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

逝く年と生れくる年の間の鈍き銀鼠色の蕎麦湯を啜る

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

男湯の夫の口笛は出る合図一ト間のアパートに肩寄せ帰る

群馬県前橋市 鶴野 敏子

「山霧」の湯気にけぶられ見晴るかす冠山かむらやまのまるきとんがり

宮城県宮崎市 中村 由美

湯灌士ゆかんしは式のつとに則り眠る子を逆さ水にて洗ひ浄めり

滋賀県大津市 船岡 房公

独り居の日課の一つ今宵また湯浴みをしつつ朗詠練習

山形県鶴岡市 大沼 二三枝

湯上りに背伸ばしたれば猫も来て同じポーズをとりにばんざい

群馬県みなかみ町 小林 博子

勤め終え灯り華やぐ露天湯に利根川見つつしばし湯浴みす

群馬県みなかみ町 小林 博子

落ちたぎるはにわの風呂に過ぎ来しを振り返りつつ命を洗ふ

群馬県みなかみ町 小林 博子

湯加減は少しぬるめのしまひ風呂二世帯家族のほど良き温さ

石川県金沢市 橋本 枝折

今日もまた湯槽にうつすら沈む砂球児の厳しき練習を告ぐ

石川県金沢市 橋本 枝折

なかなか体が温くならんのと湯舟の老女声をかけくる

三重県津市 田中 亜紀子

風邪引きにくず湯練りたる母の影焦げた小鍋にざらりと聞こゆ

埼玉県さいたま市 谷川 恵

幼き日吾がやけど治したと宝川の湯母は愛しき

群馬県前橋市 山口 タツ子

湯の栓を開ければ今日は流れゆきまた新しき明日が始まる

徳島県阿南市 坂東 典子

幼頃ひ弱な我が臥せし時ほんわか湯たんぽ入れてくれにき

岡山県倉敷市 三宅 照司

寒い秋に母に湯浴ゆあみをさせしときストーブの用意よういをるを悔くいる

山口県光市 松本 進

あくがれの「草津よいとこ・・・♪」温泉に旅して味わふ湯もみの醍醐味

宮崎県宮崎市 中村 葉月

祖たちの結びによるもの湯殿より見ゆる石垣ツタの絡まる

福岡県大牟田市 西山 博幸

太陽熱の湯を浴みほつこり笑まふ姑想ひ偲しのびぬ三十三回忌に

島根県出雲市 金山 黎子

月の夜流せり母の丸き背ナ湯の音大きく大きく響く

兵庫県神戸市 金田 美恵子

水上のまだ行っていない温泉地我機会有れば湯味わひたし

大阪府大阪市 水上之川

冬にでも室内プール泳げるなり我泳ぎつつ湯気と戯れる

大阪府大阪市 水上之川

上野こうずけの草津温泉有名なり我決めた時に湯と付き合ふ

大阪府大阪市 水上之川

時折に湯たんぽ道具登場すこれからは暖房遺産向かふ

大阪府大阪市 水上之川

お風呂とは死後の世界でも必要なり家の中湯気と気持ち良くなる

大阪府大阪市 水上之川

あかぎれのわが手温めし盥の湯肌は忘れじあのぬくもりよ

兵庫県尼崎市 柳澤 賢一

梅干しをひとつのつけた白ご飯湯気立ち上る葱の味噌汁

兵庫県尼崎市 柳澤 賢一

かりそめの温もりでいい繭ほどき我を取り出す湯のやわらかき

大阪府羽曳野市 凜 七星

丁寧に湯切りしようと焼そばをぶちまけるよな人生でした

大阪府羽曳野市 凜 七星

ちやぷちやぷと湯遊びするよ孫たちよ婆はひとりでコロナ風呂だよ

宮崎県宮崎市 青山 昌子

数日の熱の下がりて湯気立つる味噌汁うまし嗚呼つたもみぢ

京都府舞鶴市 鱒本 ミツ子

月光の中や地の唄歌う子の声は朗々ろうろう旅の湯治場

佐賀県唐津市 浦田 穂積

一般の部【自由題】

作品集

196人 447首
投稿順に掲載

かがまりて真つ赤な靴の紐むすぶ亡妻の面輪によく似た女孫

徳島県阿南市 小畑 定弘

葉桜の頃にも一度逢いたしと口づけしたりさくらに凭れ

徳島県阿南市 小畑 定弘

自肅など関係なしの野良仕事山の畑で芋を蒔くなり

長野県伊那市 市川 光男

腰曲げて残されし叔母悠悠と生きているなり田山畑へ

群馬県高崎市 齋藤 宏子

蒼空に溶け込むように君掲ぐ五ヶ月しかもまだ世間知り得ず

三重県伊勢市 伊藤 理恵

わが声に答ふる如くつぶやきて寄り来る鶏も共に老いたり

群馬県東吾妻町 青木 ソメ

里芋の葉の上に結ぶ水の玉その透明に口近付けぬ

群馬県東吾妻町 青木 ソメ

それぞれに育つピーマン茄子胡瓜朝一番に我を待ちおり

岐阜県飛騨市 野村 訓啓

台風の爪の崩した丘の斜面葡萄の苗木に陽はまた昇る

東京都足立区 鷺沼 あかね

掛軸の滝に涼しき初盆会田近竹邨雨後の夏山

大分県竹田市 佐藤 政俊

稲妻の空を走れば黒々と妙義山塊闇に浮かびぬ

東京都世田谷区 野上 卓

凍滝を月の照らせば音もなく青きひかりのしみいずるかな

東京都世田谷区 野上 卓

洗う程より安全とこだわりてマスク我が身よコロナサヨナラ

大阪府大阪市 後藤 憲之

我れ見えぬファッションマスク晴れやかも綿が穏やか手造りやさし

大阪府大阪市 後藤 憲之

家事全て引き受け十と五年経ち主夫と書きたる職業の欄

三重県亀山市 岩谷 隆司

桜散る平和願いて散る兵士母を呼ぶ声聞こえて悲し

三重県亀山市 岩谷 隆司

百合の花花瓶に飾り床の間に置けば見返り婦人となりぬ

三重県亀山市 岩谷 隆司

戸を操れば待ちかぬること蟬の鳴く辛夷の幹に縦に並びて

奈良県奈良市 堀ノ内 和夫

里の香の木曾名物の朴葉巻妹からの手作りの味

岐阜県中津川市 古井 富貴子

笑ったりおこつてみたりくり返しなんとかふたり元気でいます

兵庫県神戸市 西塚 洋子

いつしらに鳥に代りて蝶のまふ梅の葉陰にしのびよる秋

千葉県船橋市 高屋 敏子

炎天にめげず咲きたる大倫の白き芙蓉に心うばわれ

千葉県船橋市 高屋 敏子

朝の露はぐさに流れきらきらとカマキリの子ら鎌あげ駆ける

静岡県浜松市 大庭 拓郎

コロナうつ日々の不安を癒やす犬ありがたき犬愛しき家族

千葉県千葉市 うめさわかよこ

吹く風が沈みし村の盆唄となりてダム湖を渡りゆきたり

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

晩夏の峠の先のひとつ村畑打つ人に山鳩の鳴く

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

ひとりゆく丸木の橋の朽ちしみち炭焼く父と通ひたる道

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

旅といふほどにあらねど晩秋を日本海の波を見にゆく

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

君のため探しし四つ葉のクローバー俺にもあつたけなげな頃が

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

少しだけ覚えてみてと師に願ひ四年の月日にピリオドを打つ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

目に良いと喜ぶ師の顔思ひつつ今年もたわわブルーベリー摘む

群馬県みなかみ町 奥村 清美

道すがら父を偲びて語る母波打つ青田一面に広がる

群馬県みなかみ町 奥村 清美

利根川の流れさわやか淀みなく大海に向ふ勢のあり

群馬県沼田市 堀越 京子

永雨の終りて夏の本番もコロナ騒ぎは続きておりぬ

群馬県沼田市 堀越 京子

いさぎよし合歓の木咲きて廉々と風吹くままに逮捕されしと

群馬県渋川市 竹内 乞ふ吉

乳癌の疑ひの晴れ右胸を愛おしく抱く「裕子」想ひて

群馬県高崎市 湯浅 慧子

水害の爪跡残るすい田に春さきがけて蛙這い出す

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

「バカヤローウ」海に向かつて二度三度夕日も沈み波の音だけ

群馬県みなかみ町 本多 義二

それぞれの夏が夜空にのぼりゆく想いよひらけ『この空の花』

群馬県甘楽町 齊藤 淳子

肌をさす夏の勢い怖じけづきビール片手にリモコン探す

群馬県富岡市 井田 こずえ

メロン味かき氷飲みジャリジャリと龍の湖あつい胃の中

群馬県みなかみ町 篠原 忠

赤黒く染まりゆく波に陽は沈み醒めた砂浜戯れる孫

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

灼熱の太陽の下黙々と畑仕事する自分に驚く

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

暁の蚊を追いかけて平手打ち我が耳腫れて音は遠のく

群馬県みなかみ町 田中 春枝

絵日記にダメ出しされてふてくされ怒って寝てもかわい寝顔

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

青嵐草木を揺らし夏告げる蛍飛び交う夕暮れの川

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

しゃがみ込み身を寄せ合せて火をつけた長く続いて：線香花火

群馬県みなかみ町 篠原 香代

太陽と遊び疲れた午後六時黄昏色した半袖のあと

群馬県みなかみ町 大山 智也

嗜みぬし亡父の一句に親父すがた牧水を恋ひ秀句繙く

富山県高岡市 古澤 澄子

先生もドツギボールや縄跳びの仲間になった土曜の放課後

群馬県みどり市 志田 貴志生

皺々の世俗渡りて我九十小さくなれる生命火もやす

山口県宇部市 藤井 重行

牧水を顕彰すべく開催の短歌大会盛況なりし

群馬県沼田市 美 泉

真夜中の湯船に浮かばゆらゆらと海を旅する翻車魚のよう

静岡県浜松市 大庭 拓郎

山の日に山に登れぬ歯痒さよ己と向きあふ為只管打座

岩手県盛岡市 舘洞 嗣雄

山畑に雉啼くこゑを聞きながら馬鈴薯植うると黙々と打つ

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

手術終へ遠き意識に聴こゆるは医師の呼ぶ声子等の呼ぶ声

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

トヨタまでマスクを作る報道にコロナ感染のおそろしさ知る

群馬県沼田市 今井 栄一

何でまたこんな所で羽化をする柔らかい蝉は側溝の中

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

基礎疾患持ちたる我のこの夏は牧水の歌たどり擬似旅

大阪府摂津市 高橋 好恵

月めくり連休みつけ歓喜した今はしつかり生きると誓う

東京都足立区 佐藤 春夫

遭難者無事に救助の夕まぐれ谷川で冷ししビールの美味し

群馬県高崎市 田島 美徳

奥利根湖静もる水面にひとすじの露山積みにしたボート揺れつつ

群馬県高崎市 田島 美徳

谷川で冷やししビールの乾杯は遭難救助の友の特権

群馬県高崎市 田島 美徳

やうやくに這ひ出す蝉もコロナ禍に鳴けづに閑か木陰に憩ふ

群馬県伊勢崎市 野口 弘

水を張る水面さ爽やぐ夏風は植田を包み育み囃し

群馬県伊勢崎市 野口 弘

現人の世を果無みし永らふも何時しか超えぬ八十路の垣を

群馬県伊勢崎市 野口 弘

何時いつになくうれしき日かな孫二人百人首しゅの座に笑みて居る見ゆ

群馬県みなかみ町 細矢 九谷

赤とんぼは背にでつかい夕日乗せずいすいと吾を追い越す

群馬県前橋市 木下 美樹枝

詩碑祭の暮坂峠色づきて地酒の二本牧水もてなす

群馬県沼田市 田村 鶴江

魔女の杖ひとふりせしか梅・桜一気に咲かず峡のおそ春

群馬県沼田市 田村 鶴江

白樺の林に会ひたる羚羊のまなこは動く吾かたが行く方に

群馬県沼田市 田村 鶴江

体育祭フォークダンスでつなぎし手メロディラインの哀しかりき

岡山県和気町 行正 健志

湖を出でて流れに添う様に小さき水鳥列して下る

群馬県みなかみ町 細矢 ケイ子

冬の雪まるつきり少なく梅雨長し中々明けず温暖化進む

群馬県みなかみ町 ターボーチャン

温暖化冬の雪量少ないと梅雨の期間の降水量多し

群馬県みなかみ町 ターボーチャン

県内の宿泊地へと泊まり楽しみ五千円引きで得した感じ

群馬県みなかみ町 ターボーチャン

梅雨明けて立秋までは短かくて温暖化がおそろしくなり

群馬県みなかみ町 ターボーチャン

孫来るのいつかいつかとうきうきし今日来るからとスマホしまくる

群馬県みなかみ町 ターボーチャン

古里のあら草踏み分け山坂を登り来たれば青き海待つ

宮崎県宮崎市 熱田 民恵

甲高く画眉鳥の鳴くこの春は梅も桜もこぞりて咲けり

宮城県仙台市 田 正雄

孫達は卒論書くに四苦八苦そばで何してとまどう私

群馬県みなかみ町 角部 智恵子

行く方に政治が負れたとど夏が来てもコロナ終らず

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

国会は金のなる木は自分だけあとにまわして次にコロナか

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

人生の永いトンネル出してみれば今日は雨でも明日は晴れる

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

国会はたまに入れ替反せいも山けわしくて谷深くても

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

牧水の像無き峠の道の辺の秋草小さき穂を揺らし居り

群馬県みなかみ町 細矢 九谷

草かげのかすかな雨音聞く八十路時をりうすく紅さしてみる

群馬県みなかみ町 高橋 操

昼も夜も山ゆり開き匂ひ立つ閉じることなき散りゆくまでは

群馬県みなかみ町 高橋 操

三畝ほど野菜作りて二十年農家気取りで地下足袋を履く

群馬県みなかみ町 高橋 操

広びろと稲田眩しき朝の道わたくしだけの花道を行く

群馬県みなかみ町 高橋 操

歌を詠むこのひと時も人生の思い出となり時ぞ流るる

群馬県沼田市 高倉 嶮風

絆余浮沈ダイヤ婚式祝おうぜ包む妻の手我が家の宝

群馬県沼田市 高倉 嶮風

一山をへだてし山の頂に牧水も見しトマの耳見ゆ

群馬県沼田市 高倉 嶮風

電線に並ぶ燕の旅談義明日立つとか日延してとか

群馬県沼田市 高倉 嶮風

夏陽照る庭にひと雨降りくれば仄かにかおる土の香涼し

宮崎県宮崎市 熱田 民恵

瀬音にて眠られぬ一夜過ごせしと金盛館に牧水をしのぶ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

あぜ道のやうな小道を通り行き牧水歩んだ道筋たどる

群馬県みなかみ町 奥村 清美

公園の歩道にはい出す葛の蔓日ごとに増える日ましに延びる

千葉県四街道市 上田 康彦

四月よりアマビエの旗庭に立て終息願う今日のルーティン

群馬県高崎市 秋山 充利

手を入れてゆまりの放ちを確かむる介護の谷をいく度越え来し

岐阜県中津川市 吉田 順代

ご先祖に密になれよと訓話ありてコロナ禍の中施餓鬼会終る

群馬県川場村 桑原 謙一

久々の妻との時間みなかみの笹笛橋に利根の瀬眺む

群馬県川場村 桑原 謙一

簡略に急逝の友見送りぬ葉月コロナ禍炎暑の夏に

群馬県川場村 桑原 謙一

先生は堺雅人に似てると言はれそいつは誰やと倍返しをす

茨城県結城市 湯本 康二

わが心わが身を淨めたまへとて肌赤となり日光を浴ぶ

愛知県知立市 星原 風堂

本選に挑む体は震へ来て怖ろしいけどわくわくして

兵庫県洲本市 大村 博子

みちのくの更木臥牛峠越えはるかに眺む猿ヶ石川

岩手県盛岡市 森 義真

上州の小野上の湯は美人の湯肌つややかに男も磨く

群馬県渋川市 白勢 庸夫

春の雪、境公園に、ひらひらと 花びらドレスで 円舞曲を舞いて

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

赤く燃ゆる 東京タワー 芝公園に 生ぬるい風 頬をなでゆく

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

母を「美人、優しく上品で 上皇后似」と 評してくれた 美容師さん

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

千代子好きの 美声の母に 届けよーと ポリウム上げる 大みそかの夜

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

3軒目の家も 父母が働きし 預貯金で 建てをり 展示場も見ずに

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

利根川を隔てはつかなででばぽに仕事の合間の心寄せゆく

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

五竜岳登る岩稜追ひ越すは初老に見える精悍な背

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

夕焼けに赤く染まりし榛名嶺を越へて行く鳥消ゆるまでみる

群馬県高崎市 深澤 巴

姑となり二階と下に住むくらし長くなりたり四十年をすぐ

群馬県高崎市 深澤 巴

窓あけて走る車をみるという曾孫にと買う赤きミニカー

群馬県高崎市 深澤 巴

貴船へと下る杉の根美女の抱くダックスフンドに吠えられにけり

大阪府羽曳野市 皆 春

共にいて届かぬ心の距離感をコロナ故とてやり過ぎし生く

鳥取県米子市 生田 麻也子

病人に日曜は無いと言ひし妣反発したれど今納得す

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

生き物の気配をたつぷり漂はせ暗闇で寝る六つき目の吾子

広島県広島市 熊谷 純

昼さがりうさぎと亀が散歩する小さき花も青空に咲く

群馬県みなかみ町 本多 義二

小さな手握る秋桜感謝の日我が子抱き上げ大空高く

群馬県甘楽町 齊藤 淳子

花明かり君へとつづく一本道ふれた温もりもう離さない

群馬県富岡市 井田 こずえ

一輪の桜の花が咲いた時花見の団子食べる春来る

群馬県みなかみ町 篠原 忠

春の陽に桜を映す田の水は年に一度の我が家の絶景

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

負けないよ吹雪が来ても何のその黄金に光るラツパ水仙

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

蠟梅の暴れん坊な枝に咲く艶やかな春遠くへ香り

群馬県みなかみ町 田中 春枝

凜と立つ我が子の胸にカーネーション ひよこぐみから成長したね

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

ぼつぼつと花ほころんで春告げる夢もふくらみドキドキしてる

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

手つなぐ影ながくなく伸びてきた儂い蒼に急かされ「またね」

群馬県みなかみ町 桂田 紗歩

手をつなぎ歩きたかった街並みのイルミネーション横目に眺め

群馬県みなかみ町 大山 智也

竹箒持つ手に止まる赤蜻蛉動かぬやうに息飲む吾は

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

珍しき天牛にはしやく吾「子供のやうだ」と笑ふ夫をり

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

掻き寄せるポプラの枯葉鳴く如く哀しき冬の来たれる予感

茨城県東海村 風森 漣翠

水上へ孫と四人でSLにみんなはしゃいで上州を走る

群馬県前橋市 小畑 吉克

密集を避けんと登山道外れ遭難数が増えたのだという

青森県青森市 高橋 圭子

牧水の抒情に魅かれ瓢湖に来つ白銀に凜と映ゆ白鳥

神奈川県座間市 蓮見 孝子

朝五時に薄緑なる病室で諦めるなただ秋思う

北海道札幌市 鎌田 誠

暁闇を覚めて想ひぬ白秋のモノの目病みとわが目のやまひ

群馬県さいたま市 前田 明利

飾り窓クリスマスツリー煌めきぬ格差社会の象徴として

群馬県さいたま市 前田 明利

八十路われ雨にコロナに閉ざされて埋もれ火も消え抜殻となる

群馬県さいたま市 前田 明利

健気にも年古りし妻コロナ禍を負けず今日は髪結ひに行く

群馬県さいたま市 前田 明利

八十路われ青春の恋蘇り裡に騒立つ想ひ果敢無し

群馬県さいたま市 前田 明利

青空に白く溶けゆく飛行機雲とびは弧を描きゆつたりと舞ふ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

秋の日は眩く照りて手をかざす友は車窓に笑顔で手を振る

群馬県みなかみ町 奥村 清美

秋雨のフロントガラスににじむ灯がわが帰りゆく峡のふるさと

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

雪国の旅に求めし赤べこにあしたの雪の嵩を問ひみる

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

手の平にのせ息吹けばとびせうなあえかに見ゆるあけぼのの月

群馬県みなかみ町 中島 早苗

誰もかもさみし秋の夜虫の音も梢の風もしみじみと聞く

群馬県みなかみ町 中島 早苗

月光の曲を聞きつつ空仰ぐ満月煌煌希望を注ぐ

群馬県みなかみ町 中島 早苗

温き世を過ぐし来たるかあまりにも拙き歌に我は恥し

群馬県みなかみ町 中島 早苗

毬栗の歯を剥き出しにする靴で作り笑いをおぼえた少女

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

「母さんが虹の根元に宝物理めたって嘘いつも言ってた」

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

ほの暗い部屋に光を散らかして蜘蛛の子は日の息に揺れてる

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

月曜の礼拝堂に跪き淑女は最後の御祈りをする

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

それぞれが見上げる虹の根元には わたしがいます あなたがいます

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

布良の浜水平線の上の空下なる海の色を見極む

千葉県船橋市 川崎 富子

北信濃外山の風に舞い落ちる紅葉みたきやコロナ禍なれど

千葉県船橋市 川崎 富子

草原を壮快な風吹き渡りひと皮置きて立ち去りし蛇

愛知県豊橋市 篠田 武子

月始めに写真館主の取って置きが曇りなき窓に飾られており

愛知県豊橋市 篠田 武子

ここまでの旅の難儀を羽根に見せようこそ庭へアサギマダラよ

愛知県豊橋市 篠田 武子

ふる里の変らぬ景色山と川田にははげ掛け黄金に実る

群馬県高崎市 湯浅 茂子

逝く夏のひさかたの光り掬いとるプラスチックのアイスのスプーン

山口県光市 瀬戸内 光

牧水の記念館にて開催の恩師の個展妻と見る秋

宮城県日向市 黒木 直行

待ち待ちし金婚日来れど夫は病み淋し淋しと時雨降る音

秋田県秋田市 加藤 トシ子

返り花しつかり咲みてゐるやうに遺されし吾も生きられますか

秋田県秋田市 加藤 トシ子

喜寿迎へ老いと言う字に別れ告げ百歳目指し日々を励みぬ

群馬県みなかみ町 番場 正夫

校超えて練習の声天高く翔けて届けば血が騒ぎをり

群馬県みなかみ町 番場 正夫

ゲリラ雨で利根の濁流嵩増して危うき夕や万葉の歌碑

群馬県みなかみ町 番場 正夫

紅葉落ち利根川下る湯の町に客も途絶えて三昧の音も消ゆ

群馬県みなかみ町 番場 正夫

境子供会、会長の父は 日光へ 皆の名ガイド カメラマン役

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

老いし父を、まぶしげに 見上げる老女は 乙女の如く 初ういしかり

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

ユーミン流し 卓球し ランチ作りし 葉大女子寮 友4人

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

秋の田にコンバインは動いてる畔に立つてる子供が二人

群馬県みなかみ町 本多 義二

色あせた百日草は秋の日にまだ足りないと言葉をつける

群馬県富岡市 井田 こずえ

赤とんぼ千匹飛んでススキ揺れ絵を描きたい夕日と共に

群馬県みなかみ町 篠原 忠

狭い路地切られず育った大木は感謝の思いの鈴なりの栗

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

ほつくほく栗のご飯と焼き芋は甘くて旨い幸せな時

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

栗飯のくりんくりんと剥いていき三個に一つ自分の口へ

群馬県みなかみ町 田中 春枝

はせがけを見ると昔を思い出す登校前にしたいなごとり

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

焼き栗のパチンと跳ねる音がする灰をかき分け秋を食する

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

苔むした石垣のみの七尾城とんぼと君と山道登る

群馬県みなかみ町 塚川 紗妃

隣屋の子猫わらわら遊び来て先住む者の飯を狙ぬぬ

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

雨粒が遊びで砕く七色をパレットにのせ描く少年

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

空瓶を砕いて吊るす 太陽を傷つけて留める罌の如

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

「窓際に太陽を捕まえたから虐めて揺れる虹を見ようよ」

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

僕達は白か黒しか知らなくてモノクロームの虹を描いた

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

今はもう偽物のサンキャッチャーが乾いた虹を映し続ける

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

夜半の風三キロ先の鉄輪の音運び来る闇を震はせ

群馬県みなかみ町 阿部 良洋

利根川の真中あたり岩の上青鷺すつく微動だせずに

群馬県みなかみ町 阿部 良洋

水やりの背に受く暑き朝の陽に鉢植糸の花木陰へ移す

群馬県みなかみ町 林 恵美子

百日草いろさまさまに咲く花に集まる蝶にも好みあるらし

群馬県みなかみ町 林 恵美子

三密を老慮に席を方形に目がもの言ふやマスクの歌会

群馬県みなかみ町 林 恵美子

半年をジニアの花を育ててみて外出自粛も難無く過ごす

群馬県みなかみ町 林 恵美子

はるかなる子持の山の入り日どき暗赤色のシルエツト見す

群馬県みなかみ町 林 恵美子

古希が過ぎ初の仕事の雪かきに 重さしきりに手ごわさ感ず

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

お囃子のそこはダメだと夢のなか 膝をたたいて口ずさむ父

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

約束の時は過ぎててもなおも待ち 胸のイラつき静まることなき

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

あれこれと頭かすめる案じごと 生きし希を刻にうばわれ

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

母が逝き死に目あえず悲しさの 想いはめぐる父の時にも

群馬県みなかみ町 佐々木 吉雄

十六夜の橙色の月出でぬもうしばらくはこのままここに

新潟県新発田市 三浦 ユリコ

千日堂の芭蕉の句碑を訪う人のなくて終日木ノ葉舞いをり

群馬県みなかみ町 高橋 吟子

谷川岳紅葉と雪のコントラスト麓に住みてあらためて知る

群馬県みなかみ町 高橋 吟子

トラックに押し込まれゆく牛あらば牛飼ひだつた母の歌うく

群馬県榛東村 高橋 恵

コロナ禍の収束いまだ目処たたず籠り居の日々年暮れむとす

東京都町田市 谷川 治

一条の光となりて利根川は月の関東平野をくだる

東京都町田市 谷川 治

今もなほブルーシートで覆はれし屋根に容赦なく冬迫りくる

東京都町田市 谷川 治

世の中はカタカナコトバのオンパレード因果は新型コロナウィルス

群馬県高崎市 猪俣 軍司

牧水の忌日は吾の誕生日「秋月」を提げ暮坂峠へ

群馬県高崎市 猪俣 軍司

風吹けばリンリンリンリンリン鈴虫の鳴く音のごとく風鈴うたふ

群馬県高崎市 石井 省三

カラコロとまはす季節の糸ぐるま小春日和のひかりを紡ぐ

青森県八戸市 木立 徹

人は来る心を休めに日本一海に近いというこの駅に

愛媛県松山市 宇和上 正

好きなのは千枝美と白状させられき十三歳の真夏の一夜

愛媛県松山市 宇和上 正

目的地定めず独り旅を行く父母より賜いし命果つまで

香川県丸亀市 寒川 靖子

中山に古く小さな宿在りて牧水泊りし山屋と言へり

群馬県高山村 割田 良次

文明が疎開で住みし川戸村山下水のなつかしき音

群馬県高山村 割田 良次

文明の帰京の荷まとめ手伝いし算の清水いまだなつかし

群馬県高山村 割田 良次

山裾の竹樋つたう清き水山下水と文明名付く

群馬県高山村 割田 良次

おそるおそる街に出づればマスク美人あまた闊歩し我も息づく

神奈川県横浜市 高山 克子

子らたちよ笑はば笑へわが夫婦駐車場の場所を忘るるあはれ

神奈川県横浜市 高山 克子

牧水の歩きし里のみなかみは山もやさしき坪谷にも似て

宮崎県日向市 黒木 金喜

黄に染まり黄に包まれて櫛の森夫と歩けば共に童よ

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

ひと枝のバジルの香り時折に疎くなりたる心を揺する

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

やはらかく暖かき毛に手を乗せて猫とまどろむ雨の午後静

群馬県みなかみ町 奥村 清美

うららかに陽の降りそそぐ庭先の空気ふるはせへりの飛び行く

群馬県みなかみ町 奥村 清美

宿主を忘れて蜘蛛の巣は白き光匿う雨粒に垂る

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

稚児百合は稚児のまま咲く小さき花あなたはもつとわがままでいい

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

父母を聖書にしまい少年は眠る礼拝堂に抱かれ

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

一匹の蜘蛛なりたればもう二度と会う事のないきようだいがいた

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

空を跳ね地を跳ね海を跳ね若き瞳に跳ねよ天の光よ

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

毎年の信州旅行は御預けか落葉松散りゆく音の恋しき

福井県小浜市 玉井 令子

夏の草刈りたる庭に真赤なる一本だけの彼岸花咲く

福井県小浜市 玉井 令子

セーターを一枚購入店をでる秋晴れの空白き雲湧く

群馬県前橋市 長谷川 陽子

静かなる祈りのやうな優しさで散る山ざくらコ罗纳禍の春

群馬県沼田市 蛸山 恵子

保健所に今ぬたならばどんな事してゐるだらう退きて二十年

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

藤原の湖の底なる家家を見守りゐるがに水守りの像座す

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

住む人のなき家照らす秋の夜の月の光は寒寒と見ゆ

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

孫子にと杉を育てし亡き義母は安価と公害知らざるままに

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

茶の色の良きにこだはりどくだみを煎じる朝の火加減を見つ

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

着古した母の大島つくろひて羽織ればひと目心安らぐ

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

坂道を下りる一步の膝痛に思はず夫の腕にすがりぬ

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

級友とわかるや電話の声弾み癌とのくらし明るく語る

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

おもいきり二才と楽しめこの夏の凶鑑ランタンワゴン車の蚊帳

群馬県渋川市 忽滑谷三枝子

我が村に今は途絶へし婦人会時代変れば致し方もなし

群馬県みなかみ町 高橋 やま

薪風呂は嫁の私の焚く係煙にむせて泣いた日遙か

群馬県みなかみ町 高橋 やま

アルバムをめくれば思ひ出きりもなし年に二回の養蚕旅行

群馬県みなかみ町 高橋 やま

野良仕事今日も始まる老いふたり野菜畑へゆつくり向かう

群馬県みなかみ町 高橋 やま

我が村の一大イベント秋まつり老も若きも産土宮へ

群馬県みなかみ町 高橋 やま

どんぐりの青き実ぼつりく地に落し文降る処暑の裏庭

群馬県みなかみ町 木村 初枝

村境魔除けの草履風にゆれ昔の風習守りゆく里

群馬県みなかみ町 木村 初枝

冬枯の垣根ゆらして虎落笛雪降るらしや如月の夜

群馬県みなかみ町 木村 初枝

雪解水流れ坂道石ころを蹴ればやさしき春の音する

群馬県みなかみ町 木村 初枝

大根を吊せし軒の竹まいほのくとして郷愁があり

群馬県みなかみ町 木村 初枝

筐はこの中収まりきらぬこの想い届けて欲しい聖なる夜に

千葉県市川市 竹谷 華林

「ただいま」の幸せな声食卓に響く今宵のハッシュドビーフ

千葉県市川市 竹谷 華林

乾杯をリモートとする時代でもぬくもりこそが真の繋がり

千葉県市川市 竹谷 華林

ながらえば・・・とはじまる万葉の歌人の心今の自分に重ねて

北海道千歳市 後藤 みどり

丸坊主気象予報士みなみさん小学時代の男児らおもう

茨城県常総市 太田 きみ子

咳払い意見の衝突たまさかにありても父子似てる不思議よ

茨城県常総市 太田 きみ子

幸せに気づいた私は幸せだ！打ち水をして幟を立てる

群馬県沼田市 桑原 環世

夕ぐれを畑に傾く日を背なに明日の出荷え熟るみかんつむ

大阪府岸和田市 向井 靖雄

限界の集落に住み星月夜来し方行く末妻と語らふ

大分県国東市 原 比呂子

海見ゆる丘に寝そべりたんぽぼの絮の旅立ち風が促す

大分県国東市 原 比呂子

一頻り時雨過ぎゆき光る空と森に二重の瑠璃色の虹

宮城県仙台市 高橋 義仁

そろそろに新酒の知らせ聞くころが亡夫の好みの秋田は「刈穂」

愛知県蒲郡市 牧原 正枝

夫と並み^なラクダに揺られはるぼろと砂漠ゆく夢来世につなぐ

群馬県前橋市 松下 昭代

筋トレにいい汗かきてストレッチ七十五歳まだまだいける

群馬県前橋市 松下 昭代

コロナさけ自然公園さそわれてブナの大樹や紅葉染しむ

群馬県みなかみ町 阿部 伊亨

米作り八十までと元張った延長するかあと二、三年

群馬県みなかみ町 阿部 伊亨

穏やかに暮れ行く里の夕ぐれに植田の蛙生命はりあう

群馬県みなかみ町 石坂 作次

エコパーク認定されし町に住む猪熊野猿人と住みわけ

群馬県みなかみ町 石坂 作次

お茶に良しコーヒーに良し岩清水山の土産げと孫より届く

群馬県みなかみ町 石坂 作次

青空に風満腹の鯉幟り峡の話題を一人じめして

群馬県みなかみ町 石坂 作次

町作り桜二十本植樹せる出湯の里の万朶夢みて

群馬県みなかみ町 石坂 作次

宵闇の背戸にふくろう鳴く夜の猫は窓辺にきき耳たてる

群馬県沼田市 田村 鶴江

紅葉のぶなの茶色に魅せられて紺屋に染めし着物掛けみる

群馬県沼田市 田村 鶴江

ポインセチアおまけトビムシ目の前を吾よりきれいなお花見えぬか

熊本県熊本市 横田 靖子

幼げの未だ残りしきみなれどすでに酔ひけり還暦の夜

群馬県みなかみ町 大崎 藤一郎

やがてまた遠くなるらむ故郷の思い出抱き家路につきぬ

群馬県みなかみ町 大崎 藤一郎

義姉つれて五重の塔まで届くとふ桜の東寺の心柱みる

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

ひとすじの蚊取線香匂ひきぬ今もあるやう祖母は隠居に

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

溪谷をこよなく愛せし昔人の面影しのぶ利根の浅瀬に

群馬県太田市 白石 政江

真向ひの榛名の山の懷に抱かれて見ゆ夢二の面影

群馬県太田市 白石 政江

ゆく秋の大き夕焼けわれも木も濃き輪郭となりて包まる

京都府福知山市 阪根 まさの

東歌残る山路を防人の霊か黄の蝶惜しむかに飛べり

群馬県高崎市 佐藤 香林

終活か庭木を夫は伐り倒し深深坐る足悪き身に

群馬県高崎市 佐藤 香林

饅頭の皮の厚さの不均一他人にはやれぬと義母のプライド

群馬県榛東村 岸 和夫

初めての新米食べてひとめぼれ一粒にふれその人すべて。

群馬県みなかみ町 深代 里子

牧水はいかなるときに酒飲むや飲みたくなりて牧水は飲む

東京都杉並区 庭野 治男

水上の絵を描く間ラフティングボートの喚声流れ行きけり

群馬県千代田町 大谷 徳湖

暁を歩まば土手の草むらに沸きたつまでの虫の音つづく

群馬県昭和村 板橋 きみ江

明日出荷のささやかなりし蒟蒻芋の砂払ひをり小春日ぬくし

群馬県昭和村 板橋 きみ江

母ならばこのやうな時かく言ふと思ひて凌ぎしピンチいくたび

茨城県笠間市 飯田 初江

雀らの土浴びの跡いくつかの窪みにたまる枯葉いろいろ

茨城県笠間市 飯田 初江

一人酒夜半の月影冴へ渡り彼の世の父も酌むことありしか

群馬県みなかみ町 割田 一

ゲレンデより見下ろす闇の三国路を一条帯に灯は煌めきて

群馬県みなかみ町 割田 一

仕事行く錆の眼につく軽トラで春まで走れ健康診断

群馬県みなかみ町 本多 義二

あなたの手わたしの手とが重なって誰かの未来笑顔になあれ

群馬県富岡市 井田 こずえ

一ミリの木を貼り切つて曲がったら「あ！」と後悔進む対策

群馬県みなかみ町 篠原 忠

ぬる！ずぶそして抜けない後悔が頭をめぐつた初めての田植え

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

誉め上手若い上司に恵まれて此处で頑張るパート人生

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

手伝いはおでんの玉子十六個むきにくい殻染しくもあり

群馬県みなかみ町 田中 春枝

どうしてかトイレに行くと掃除中 気分転換できずに終わる

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

なぜだろう好きで始めた事なのにこんなに辛く涙とまらず

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

ぽつりとした指キーボード叩く 絡めてぬくもり分け合う夜

群馬県みなかみ町 塚川 紗妃

歳を取りニオイ取れない作業着の柔軟剤の香でごまかす

群馬県みなかみ町 大山 智也

鮮明な日付を語る義父の声戦争だめの思いが響く

群馬県千代田町 大谷 光男

姪の子の結婚式に召ねかれて乾杯の酒やけに身に沁む

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

朝夕の冷気が蓄くすぐりて庭の山茶花咲き初めるなり

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

二波三波コロナ感染止めどなく耐えて凌ぎて絶滅の日を

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

牧水の旅は概ね歩く旅その健脚を試してみたし

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

神無月より咲き初めし山茶花の師走は花の盛りとなりぬ

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

庭の楓こがら一号で染め始む一週間後こがらしに散る

群馬県みなかみ町 増田 津恵女

愛犬の小さき石の墓の上に今朝うつすらと初雪の降る

群馬県みなかみ町 増田 津恵女

凧吹き落葉浮きたる露天風呂竹馬の友と万座の一夜

群馬県みなかみ町 増田 津恵女

夏の夜の星座見に来いと皆集め中学時代の教師今こく

群馬県みなかみ町 増田 津恵女

亡き夫の法要終えて帰途につく雪虫舞いて舞いて漂よう

群馬県みなかみ町 増田 津恵女

名産のりんごの命々名月と其の名もゆかし君子嘯ふや

群馬県みなかみ町 遠藤 長代

山里の関係人口とみなされぬ神楽舞継ぐ若き娘は

宮崎県宮崎市 岩切 喜久代

眠りつつ「昔の話したよ」と母「誰と？」の問いには答えぬままに

岐阜県飛騨市 横山 美保子

買ひたき本あれば杖にても転ぶごとと勇み出でゆく九十五歳翁は

静岡県沼津市 柳田 治美

故郷の君を想いて砂に書く名前を波が消し去りてゆく

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

雪解水集め滔々阿賀野川SL黒煙川面に映して

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

懐かしき家並つづく奈良井宿夕陽に染まり道祖神笑む

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

御朱印を受けし古刹の参道にもみじハラハラ木枯しに散る

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

電車待つ人影まばらの無人駅ポストに淡き春の雪降る

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

過疎進む限界村の故郷は人も語らず雪降りしきる

群馬県みなかみ町 林 好一

ふるさとの湖畔公園立ち寄れば移植されたる曼珠沙華赤く

群馬県みなかみ町 林 好一

花に耳有るものと知り手入れごと語り掛けしは美しく咲く

群馬県みなかみ町 林 好一

八十路なる目先の仕事捗らず花壇の草の伸びる早さよ

群馬県みなかみ町 林 好一

あの日あの時野山を駆けて花を愛で古きアルバム八十路で語る

群馬県みなかみ町 林 好一

奥四万湖青くすみたる水面に小百合のポート見ることなし

群馬県高崎市 天田 勝元

心って鉄砲羊羹みたいだな楊枝でつくと丸はだかになる

群馬県前橋市 久保田 桂子

秋深く移ろひにけむ赤谷湖に朝日差し初み映る山影

東京都杉並区 堀井 邦子

霧がくり景閉ざさるる湖の面きのふ見しにと晴れ来るを待つ

東京都杉並区 堀井 邦子

鶯の初音も悲し人の世にコロナウィルス猛威を振るふ

群馬県沼田市 保坂 スミ

窓を開け又来ると告げ帰り行く君の車は夕闇に消ゆ

群馬県沼田市 保坂 スミ

降る雨に可憐な花を咲かせたる藪草露草手折らず野に措く

群馬県沼田市 保坂 スミ

山隠し野を眠らせて降り続く雨は滴る山百合の花

群馬県沼田市 保坂 スミ

孤独死を報ずる新聞読む吾も独り身なれば身につまされる

群馬県沼田市 保坂 スミ

コンビニの弁当の飯に嫉妬する土鍋飯炊五年の我は

愛媛県新居浜市 大賀 康男

快晴の三国連山初冠雪錦の裾野王位のごとく

群馬県みなかみ町 諸田 弘

鳥獣の足跡数多河川敷散歩コースに周り見渡す

群馬県みなかみ町 諸田 弘

夕暮れの鳥の楽園柿色に自然の姿反復リズム。

群馬県みなかみ町 深代 里子

雲海の秩父盆地を見下して列車音聞く朝の始まり

群馬県みなかみ町 山崎 樹彦

季節ごと土地ごとに見る草木染人の知に染め人の輪に染め

群馬県みなかみ町 山崎 樹彦

牧水の『みなかみ紀行』を写すとき和紙の上にも届く月かげ

京都府舞鶴市 新谷 洋子

朧なる記憶の中を回転する水車造りしは亡父とふ翁の語り

群馬県安中市 新井 八重子

小煩き落ち蚊の羽音に打ちたるは闇のみなるか再び襲来

愛知県岡崎市 中村 佐世子

北からの雪の便りの寒寒し重ね着なすか銀杏葉繁く

愛知県岡崎市 中村 佐世子

湯豆腐の土鍋の底に敷く昆布夜の厨にはつかに揺るる

神奈川県川崎市 藤原 礼子

あれほどに旨しと亡父の笑顔なるその酒その後も許しがたく来

香川県三豊市 上久保 忠彦

GOTOの旅へと向かうこの朝わくわくとして待つ「のぞみ号」

神奈川県愛川町 富田 茂子

教室の窓よりスナメリ跳ぶの見ゆ単語テストの静寂の間に

広島県広島市 小野 系子

秋霧にサルビアの赤際立ちぬ歌友の家へ続く道辺に

群馬県川場村 林 郁男

血管のごとき稲妻きらめきて降り出す雨は抜け降りとなる

群馬県川場村 林 郁男

堰浚ふ人足終へて連れ帰る牛膝の実衣服に着けて

群馬県川場村 林 郁男

軒下の柱に見付く枯蠟螂凍み入る今朝に役目終へしか

群馬県川場村 林 郁男

里山のそがひに聳ゆる武尊嶺が雪を被きて七秀際立つ

群馬県川場村 林 郁男

雪国に雪の無かりし去年あれば長期予報を聞きて安堵す

石川県金沢市 前川 久宜

かるやかに死を語りあるふたりありさうだどちらも死は未体験

石川県金沢市 前川 久宜

読み聞かせの絵本にコクリ舟を漕ぐ子の口元に星のかけらが

群馬県渋川市 木暮 由利子

光陰矢昭和平成令和とも神社仏閣夫婦でめぐる

群馬県みなかみ町 真庭 三枝子

いち夜にて盛る紅葉の散り果てて冷たき雨に身の内も冷ゆ

群馬県みなかみ町 真庭 ヨシ子

子猫たちキャットフードの食事中狐と狸闇から覗く

群馬県みなかみ町 本多 義二

魂に体温計を渡してるマスク姿の閻魔大王

群馬県富岡市 井田 こずえ

謎解きで謎の難問「なんぞやと」謎がなぞ呼ぶ謎謎問題

群馬県みなかみ町 篠原 忠

あれは何？山の向こうの満月は影絵のように林を映す

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

待ち望み授かりし孫愛おしく娘の世話も鼻歌が出る

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

セピア色写真の隅でにやけてる父ちゃんは超イケメンだった

群馬県みなかみ町 田中 春枝

複雑な気持ちで眺める鬼滅缶ついつい買っちゃう私親バカ

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

風呂上がりパッケの顔でラーメンを食べるといふ娘口開かないね

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

逢ったのは二ヶ月前のこの席です七輪爆ぜてシロコロ返して

群馬県みなかみ町 桂田 紗歩

こもれびの散歩静かに深呼吸 湿度で感じるあなたとの距離

群馬県みなかみ町 大山 智也

山登り雲海見渡す真夏日にゴールできぬが疲れ吹き飛ばす

群馬県みなかみ町 篠原 悦二

利根川の流れ眺める牧水の旅の姿が水面に浮かぶ

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

利根川の雪代水は波砕け底よりきしむ石ずれの音

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

列風に山頂ゆがむ寒の岳麓の宿の灯りゆらめく

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

池に柿落ちて虫の音止まりてもやゝもせぬうち愛し恋歌

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

牧水の旅行く姿みなかみで見かけ呼び止め短歌を聞く夢

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

天秤の銜える口をはなす時どこかで雨が鳴りはじめるの

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

両腕のまきつく膝に唯一の血肉の備う肉親がいる

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

虹の根に近づく足が行義よく埋まる地雷に気づく瞬間

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

停戦に迷彩服の跳ねまわる春野の白き兎のように

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

さよならをやさしくつつむ抱擁がはちのつぼみのかたちにてた

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

コロナ禍に縮小されし牧水祭枯野の旅の吟しめやかに

群馬県前橋市 鵜野 敏子

白鳩が羽ばたくように譜面ひろげ聖歌隊は歌いはじめる

宮崎県宮崎市 中村 由美

自販機の缶コーヒを握りしめ束の間の暖取り合った夜

滋賀県大津市 船岡 房公

コロナ禍避け断捨離励みやうやくにツンドキシ本読み始めたり

山形県鶴岡市 大沼 二三枝

腰を折り無心で草抜くボランテア仲間になりて我れ学ぶ日々

群馬県みなかみ町 阿部 さだ子

小百合ストに吾もならんよ高齢者なお健在の美しき女優

群馬県みなかみ町 小林 博子

呼吸してゐるやも知れずカサブランカの花はふかぶか芳香放てり

群馬県みなかみ町 小林 博子

お客さまがあつと驚くホテルにとアイデアつのである社長の訓示

群馬県みなかみ町 小林 博子

脱穀の遅るる稲を思ふなり今宵降る雨のいさぎよしき音

群馬県みなかみ町 小林 博子

人は古い田畑を荒らす獣たち集落の農ほろびるならん

群馬県みなかみ町 小林 博子

一日の終しまひに向かふ鏡面へ吾おを案ずるや妣も来て踵かかとつ

石川県金沢市 橋本 枝折

零余子飯の苦さが美味いと知つたのは陽気なママの茶房のランチ

石川県金沢市 橋本 枝折

三か月ぶりに髪切り戻る子の頭を撫でる猫撫でるように

三重県津市 田中 亜紀子

富弘のぶだうを見れば甘き香はずつしりとしたいのちのうへに

埼玉県さいたま市 谷川 恵

前まえ翅はねを捻ねりて小ちさき風おこす揚羽に傘を差しかける夏

埼玉県さいたま市 谷川 恵

バックミラ白銀の谷川や岳ま写りきつ母が朝なさおろがみし山

群馬県前橋市 山口 タツ子

ただ咲いて桜の花は疲弊した人の心を癒してくれる

徳島県阿南市 坂東 典子

階段が苦手の妻は両側の手すりすりすり背面下りせり

岡山県倉敷市 三宅 照司

目覚めればどもりが治っているような幾度もあつたそんな朝あしたは

山口県光市 松本 進

宮崎の真つ青な空冬の空南へ向かふ機影は何処へ

宮崎県宮崎市 中村 葉月

秋ナスの頑張りおもひ秋キウリの頑張りおもひ感謝す妻と

福岡県大牟田市 西山 博幸

御祖より受け継ぐいのち夫も吾も信じ合ひつつ八十路生きなん

島根県出雲市 金山 黎子

マスクしてマスクの人に出会ひたる会釈を交わすいつものように

兵庫県神戸市 金田 美恵子

突然のコロナウイルス現れる収束迄我落ち着かぬ

大阪府大阪市 水上之川

いつまでもテレビゲーム普及す四六時中するは目悪くす

大阪府大阪市 水上之川

オリンピック一年延期仕方なし簡素化でも晴れ舞台願ふ

大阪府大阪市 水上之川

東京パラリンピック延期する中止になればショック多し

大阪府大阪市 水上之川

延期するワールドマスターズ二年後に中高年のオリンピック

大阪府大阪市 水上之川

牧水の歌友桜花の孫娘われらが恩師故三澤静子氏

兵庫県尼崎市 柳澤 賢一

ひもじさのあまり冬眠まならず熊はコロナの世に出て来たり

兵庫県尼崎市 柳澤 賢一

気やすめの言葉は胸の底にある澱かき乱しわたしを濁す

大阪府羽曳野市 凛 七星

見苦しい野良だと人も殺処分されて清らで健やかな街

大阪府羽曳野市 凛 七星

「切っちゃうの？」二才児は言う「かわいそう」赤バラのそばハサミは止まる

宮崎県宮崎市 青山 昌子

川掃除水たつぷりと含む藻の引きあげられる青青として

京都府舞鶴市 鯨本 ミツ子

浅春の野辺の送りにゆらゆらと煙りの母はこの世眺めつ

佐賀県唐津市 浦田 穂積

※ 高校生以下の部の作品は、一般の部とともに令和3年3月以降に

みなかみ町ホームページ内に掲載予定

第四回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

令和3年3月発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379 | 1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321 | 1

みなかみ町教育委員会 生涯学習課内

電話0278 (25) 5025

令和2年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日 令和3年(2021)3月7日(日)

会場 みなかみ町カルチャーセンター

群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735

主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

共催 みなかみ町牧水会

後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・おちあいしんぶんマイタウン
たにがわ・沼田エフエム放送株式会社・三成社株式会社
(一財)三国路与謝野晶子紀行文学館

